

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。  
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

#### 安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

#### 一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

### <施工の前に>

**警告**

- 門扉は人や車の出入りする場所に設置するものです。使用用途・目的を踏まえた上で必ず安全な場所に設置してください。特に開閉時の扉が公道（道路面）に飛び出さないようにしてください。

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- コントローラー用配線を除く配線および埋設管は、現場で手配してください。
- 埋設管には、PF管を使用してください。
- 地中電線路の配管には、将来掘り起こすことがない場所を選んでください。

### <施工上のご注意>

**注意**

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
  - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
  - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
  - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
- 重量物ですので、2人で作業を行ってください。
- 外開きタイプでは開閉時に扉が公道（道路面）等へ飛び出さない位置に設置してください。
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。
- 2線配線式の場合は、「タッチ&ノータッチキー門扉 ー2線化変換アダプターセット（T007）」の取付説明書および各付属の施工説明書を必ず参照してください。














## <電気配線工事について>

### ⚠ 注意

- AC100Vの電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
- AC100V用の器具は、D種接地工事を行なってください。
- 落雷時の器具破損、誤作動防止のため、家屋から通電金具間は架空配線をしないで地中配線にしてください。
- 家屋から通電金具までの配線および施解錠スイッチへの配線は、別の100Vおよび200Vの配線と交差して配線しないでください。平行に配線する場合は、500mm以上離してください。また、埋込配線の部分は、100Vおよび200V電源とは別配管にしてください。
- 配管距離が長い場合、また曲がり数が2ヶ所以上になる場合は、ハンドホールを設けてください。
- ハンドホール内で電線の接続は行なわないでください。
- 配管内に水が侵入しないように、パテなどでふさいでください。
- スリーブの固定は、必ず専用の工具でカシメてください。
- PF管・2コ用スイッチボックス深型カバー付きは現場で別途手配してください。

## ■梱包明細表

### 【1】扉本体




名 称	略 図	員 数	
		配線式	
		掛扉	受扉
扉本体		1	1
1コ用スイッチボックス 通電金具用		1	—
上ヒンジ		1	1
下ヒンジ		1	1
ヒンジ裏板		2	2
ヒンジキャップ		2	2
ヒンジカバー		2	2
落とし棒受け		—	2
吊元枠カバー		1	1
タッチキーリモコン (※1)		2	—
キー (※1)		4	—
お出かけサムターン (※1)		4	—
調整金具固定部品 (※2)		4	—

### 【1】扉本体 (つづき)

名 称	略 図	員 数	
		配線式	
		掛扉	受扉
【1-1】 M4×10トラスネジ		8	8
【1-2】 φ4×16サラダリルネジ		10	10
【1-3】 M5ターンナット(※2)		8	—
【1-4】 M5×30ナベ小ネジセムス(※2)		8	—
取付説明書 (A458)	—	1	—
取扱説明書 (UA170)	—	1	—


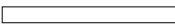






- ※1 施工終了後、施主様に必ずお渡しください。  
 ※2 門柱使用時に使用する部品です。また片開きの場合は半数余ります。

### 【2】戸当り

名 称	略 図	員 数
戸当り		1
合掌枠カバー		1
【2-1】 φ4×16サラダリルネジ		10(※3)

- ※3 H14は2個余ります。

### 【3】片開き受け部材

名 称	略 図	員 数	
		H14	H16,H18
片開き受け部材		1	1
クッション材		1	2
【3-1】 M5ターンナット		4	4
【3-2】 M5×30ナベ小ネジ		4	4
【3-3】 コンクリートプラグU8		4	4
【3-4】 φ5×30ナベタッピンネジ1種		4	4
【3-5】 M5バネ座金		4	4
【3-6】 M5平座金		4	4

[4] 室内メインコントローラー

名称	略図	員数
室内メインコントローラー		1
プレート		1
プレート枠		1
[4-1] M4×25サラ小ネジ		4

[5] コントローラー用配線

名称	略図	員数
コントローラー用配線		1

[6] 増設スイッチ

オプション

名称	略図	員数
増設スイッチ		1
コードB		1
増設配線コード		1
プレート		1
プレート枠		1
[6-1] M4×25サラ小ネジ		4

[7] タッチキー

オプション

名称	略図	員数
タッチキーリモコン		1

1. 基本寸法図と各部の名称

※図は、H16内開き仕様を示します。( )内寸法はH14、[ ]内寸法はH18を示します。

1-1 柱仕様 基本寸法図

(1) 片開き

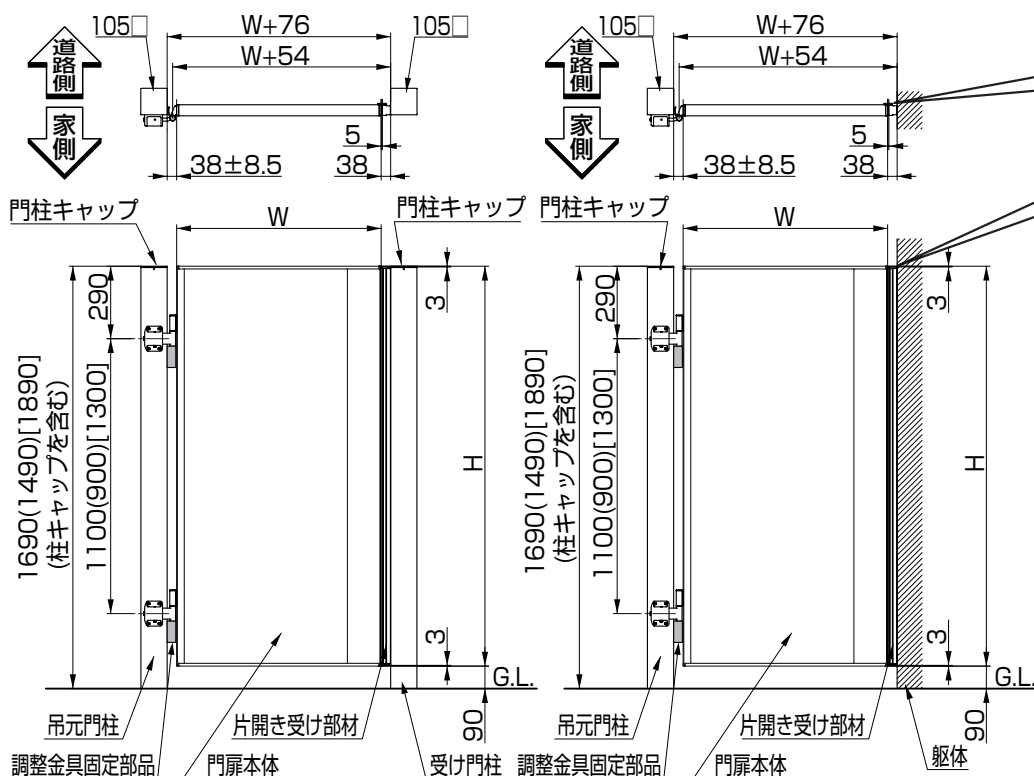


図1-1 受け門柱仕様

図1-2 躯体付け仕様

表1-1

呼称	W	H
05-14	500	1400
05-16	500	1600
08-14	800	1400
08-16	800	1600
09-14	900	1400
09-16	900	1600
09-18	900	1800
10-16	1000	1600
10-18	1000	1800

# 1. (つづき)

## (2) 両開き

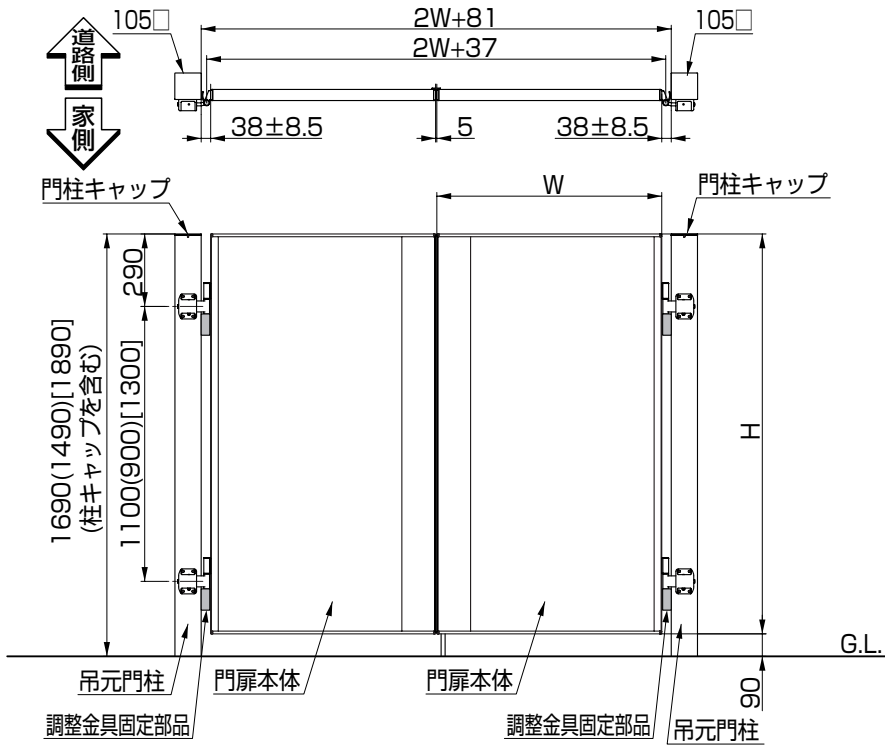


表1-2

呼称	W	H
05-14	500	1400
05-16	500	1600
08-14	800	1400
08-16	800	1600
09-14	900	1400
09-16	900	1600
09-18	900	1800
10-16	1000	1600
10-18	1000	1800

### 1-2 調整式埋込金具仕様 基本寸法図

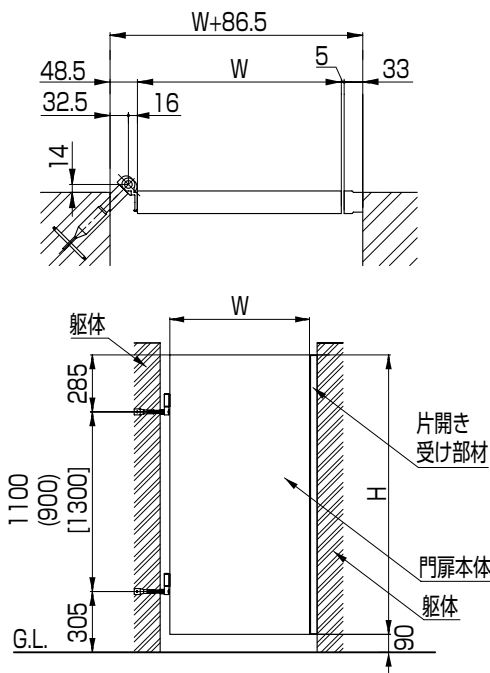


図1-3 片開き

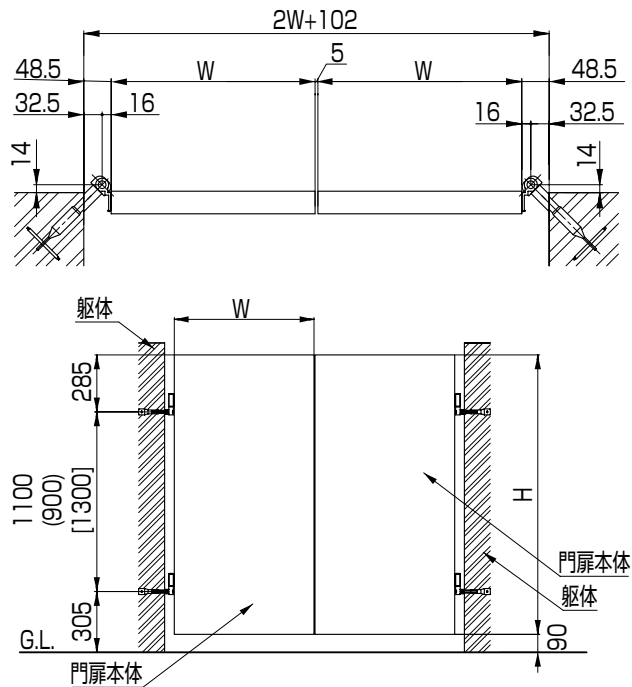


図1-4 両開き

#### ポイント

- W寸法・H寸法は、柱仕様と同じになりますので「1-1柱仕様 基本寸法図」の表を参照してください。
- 施工方法は、「調整式埋込金具」に同梱している取付説明書 (A288) を参照してください。

### 1-3 半調整式埋込金具仕様 基本寸法図

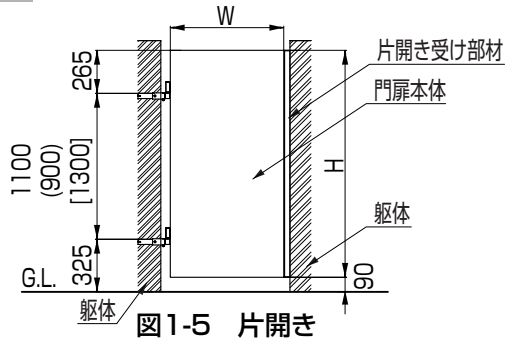


図1-5 片開き

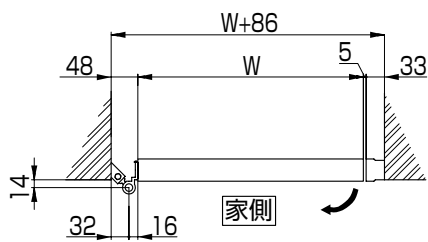


図1-6 片・内開き

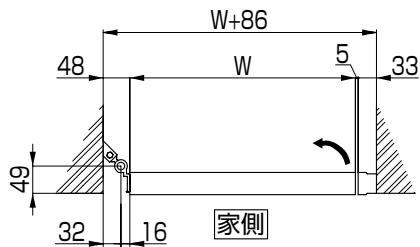


図1-7 片・外開き(開口角度約89°)

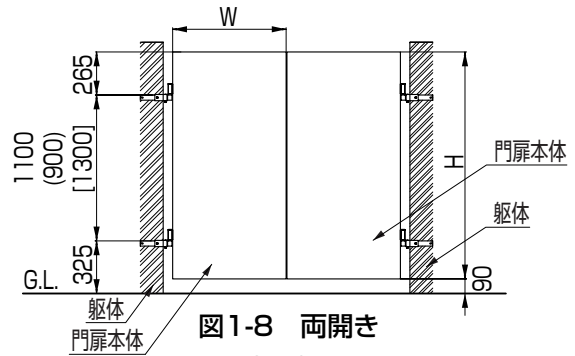


図1-8 両開き

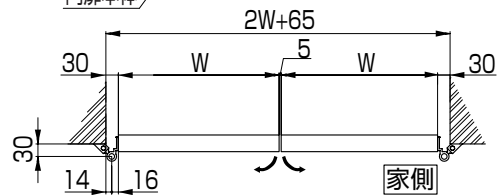


図1-9 両・内開き

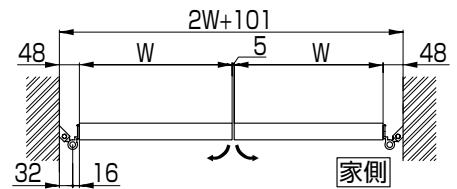


図1-10 両・内開き(開口角度約88°)

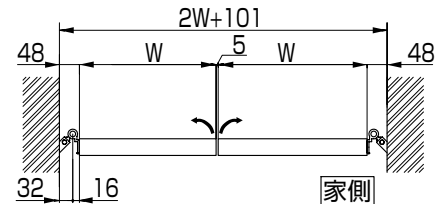


図1-11 両・外開き(開口角度約89°)

#### ポイント

- W寸法・H寸法は、柱仕様と同じになりますので「1-1柱仕様 基本寸法図」の表を参照してください。
- 施工方法は、「半調整式埋込金具」に同梱している取付説明書 (A286) を参照してください。

### 1-4 部品配置

#### (1) 片開き

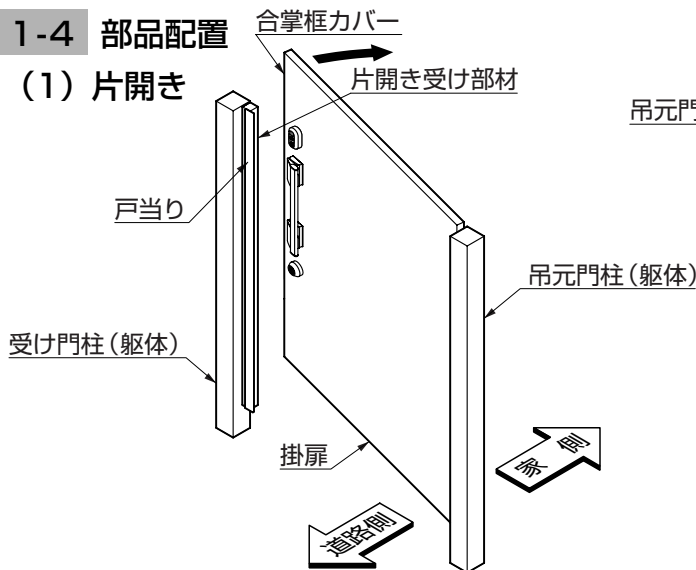


図1-12 右勝手・内開き

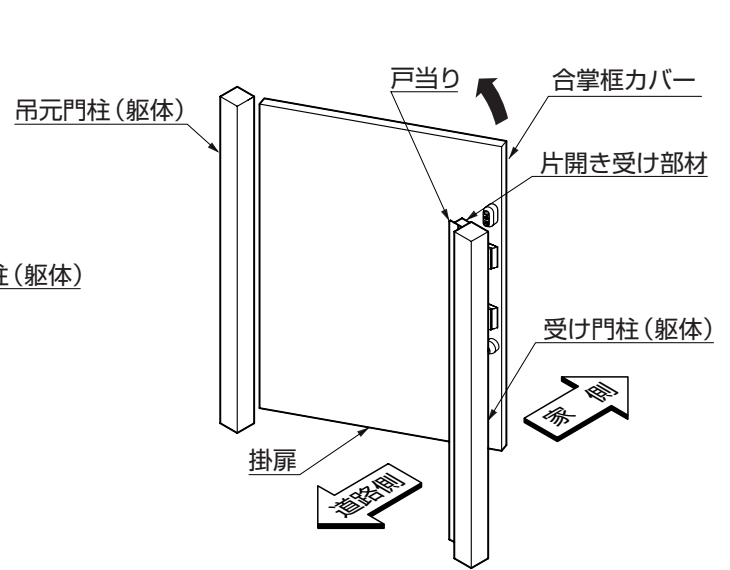


図1-13 左勝手・内開き

# 1. (つづき)

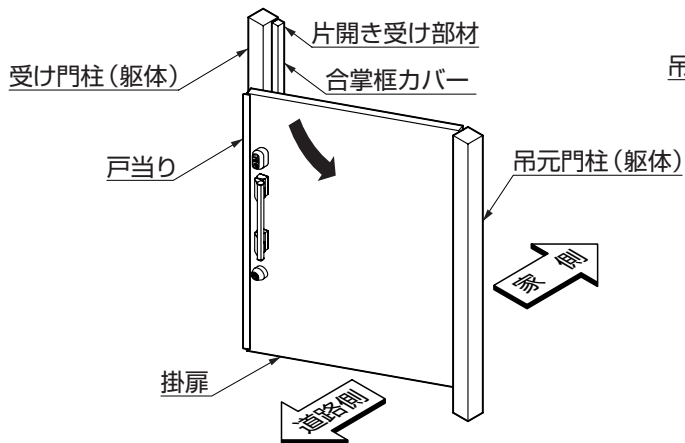


図1-14 右勝手・外開き

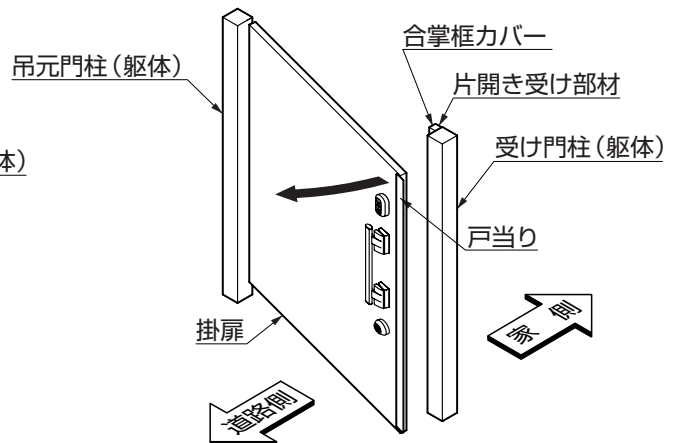


図1-15 左勝手・外開き

## ポイント

●片開き受け部材は、壁などの躯体に直接固定することもできます。

## (2) 両開き

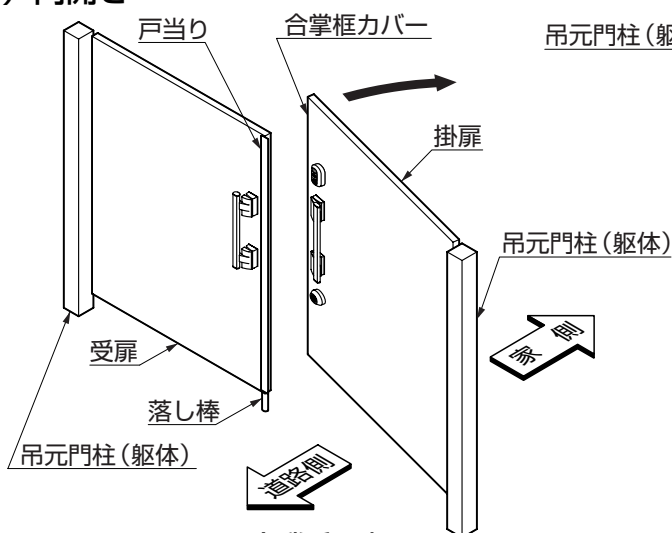


図1-16 右勝手・内開き

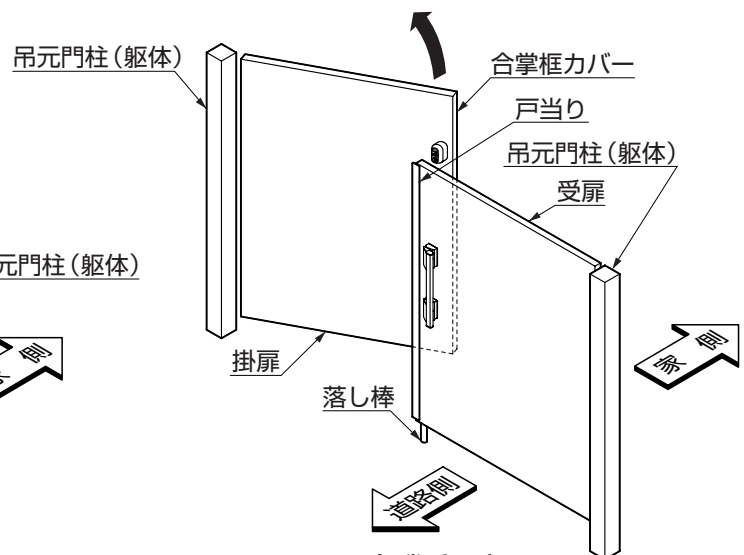


図1-17 左勝手・内開き

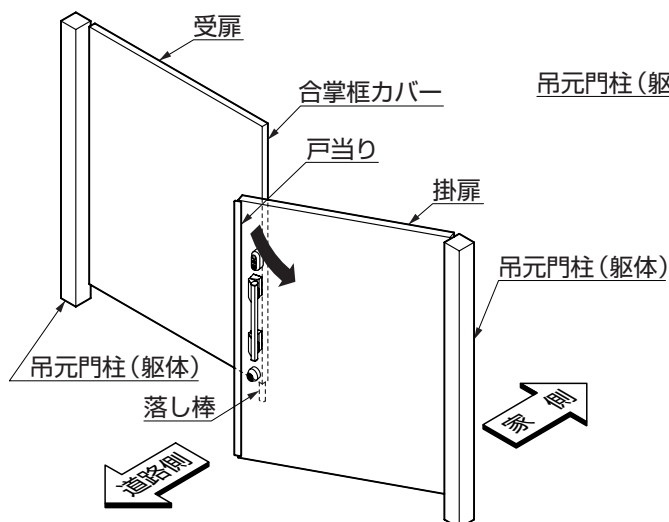


図1-18 右勝手・外開き

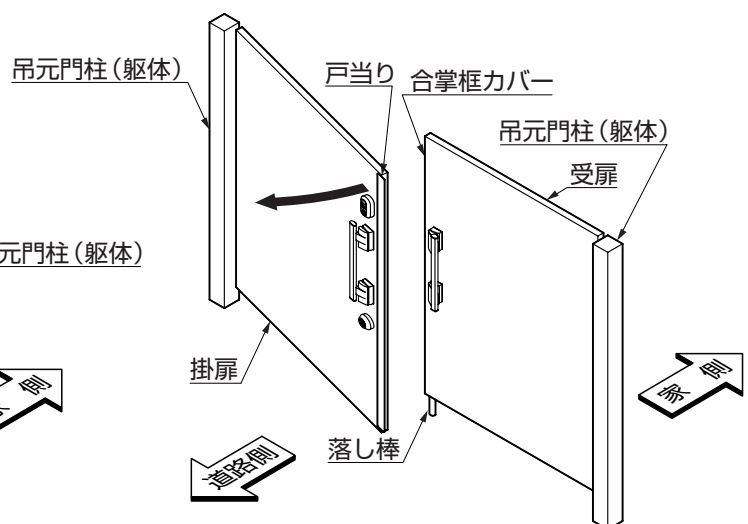
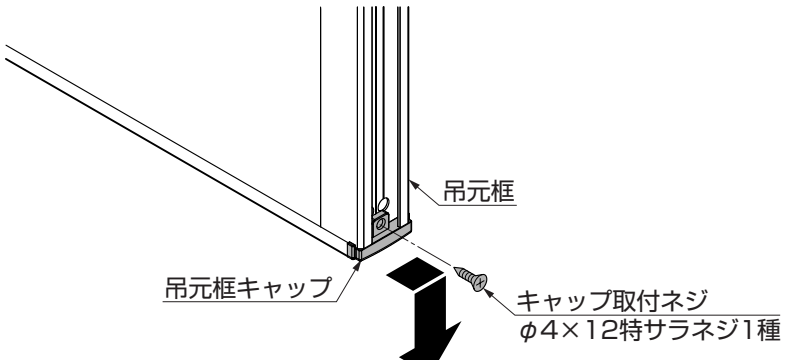


図1-19 左勝手・外開き

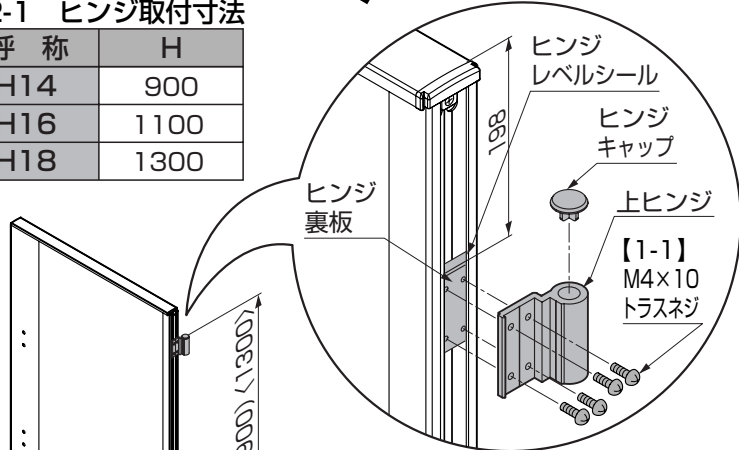
## 2. ヒンジの取付け ※図は、H16の場合の寸法です。( )内寸法はH14、< >内寸法はH18の場合を示します。



①キャップ取付ネジを取外し、手前に吊元枠キャップを引き、下へ取外してください。

表2-1 ヒンジ取付寸法

呼称	H
H14	900
H16	1100
H18	1300

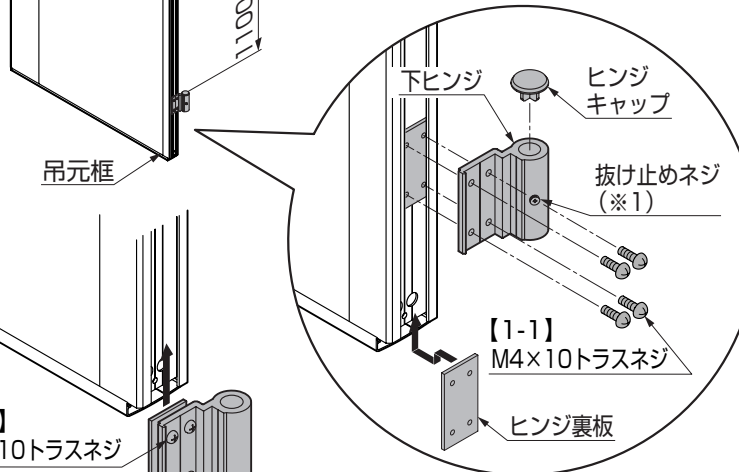


②ヒンジ裏板を吊元枠下端からスライドして、各ヒンジを図に示す位置に【1-1】で固定してください。(表2-1参照)

③ヒンジキャップを取付けてください。

### ポイント

- ヒンジには上ヒンジと下ヒンジの区別があります。
- 抜け止めネジ(※1)がついているヒンジが下ヒンジです。



### 補足

- あらかじめヒンジに、ヒンジ裏板を仮組みした状態で吊元枠にスライドさせ、取付けると簡単です。(図2-1参照)
- ヒンジの向きは内開きと外開きで異なります。(図2-2参照)

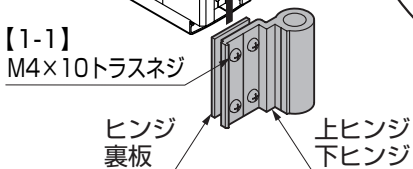


図2-1

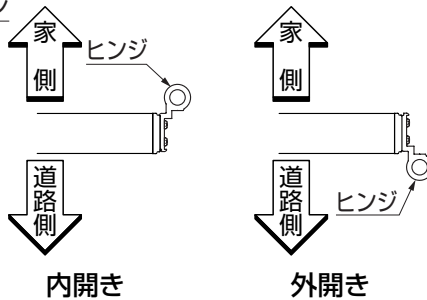
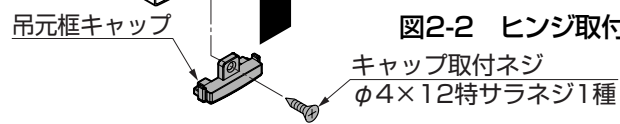


図2-2 ヒンジ取付方向

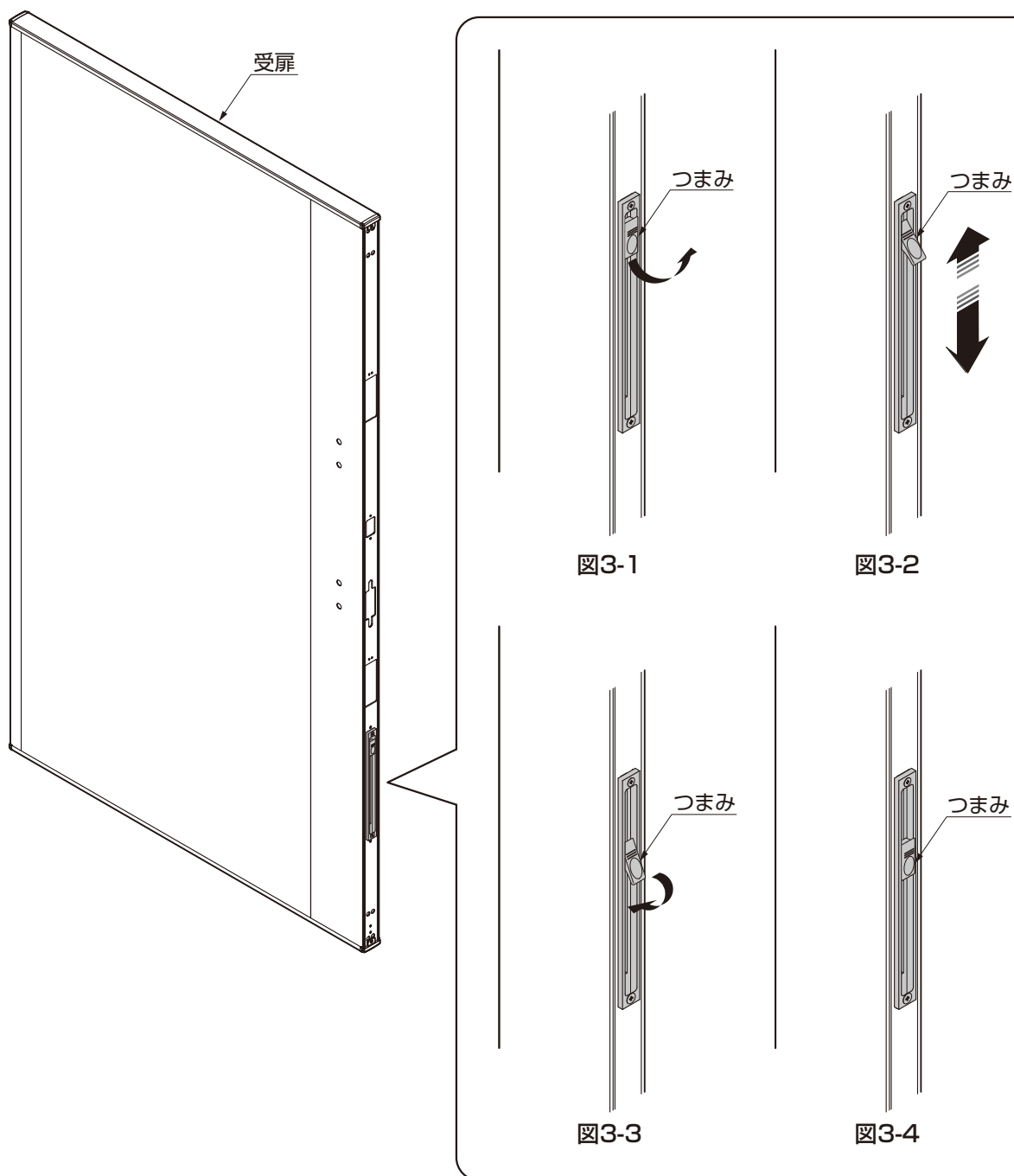
④ヒンジの取付けが終了したら吊元枠キャップを取外した手順と逆の手順で取付けます。

### ポイント

- 吊元枠キャップの取付けには、電動ドライバーを使用しないでください。



### 3. 落とし棒の操作方法



- ①つまみを引き上げ、ロックを解除してください。(図3-1参照)
- ②①で起こしたつまみをそのまま上下させて落とし棒を操作します。(図3-2参照)
- ③落とし棒の位置が決定したら、つまみを元にもどしてロックしてください。(図3-3参照)

#### ポイント

- 落とし棒操作時以外は、ロック状態にしてください。(図3-4参照)



## 4. 片開き受け部材の取付け ※片開きの場合の作業です。

### 4-1 受け門柱に取付ける場合

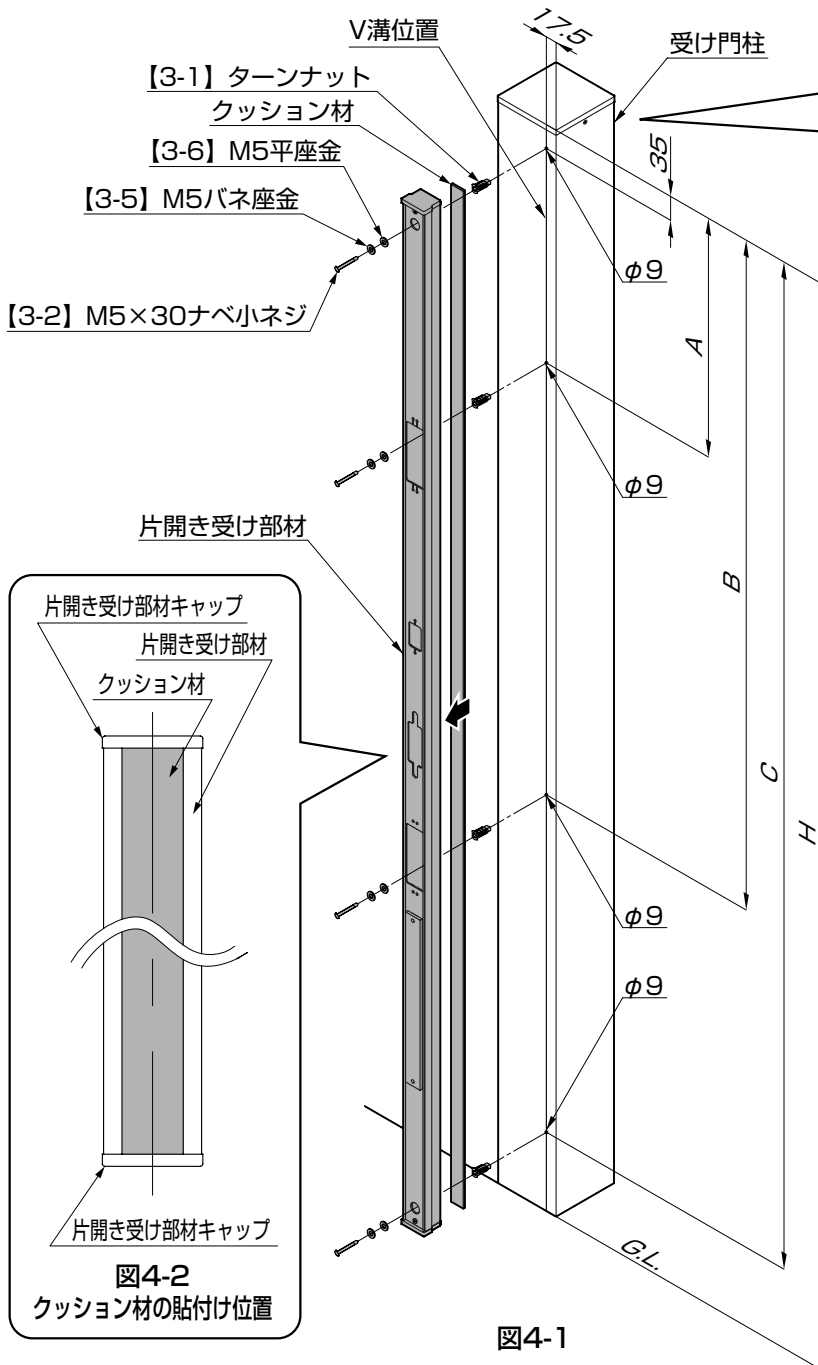


図4-1

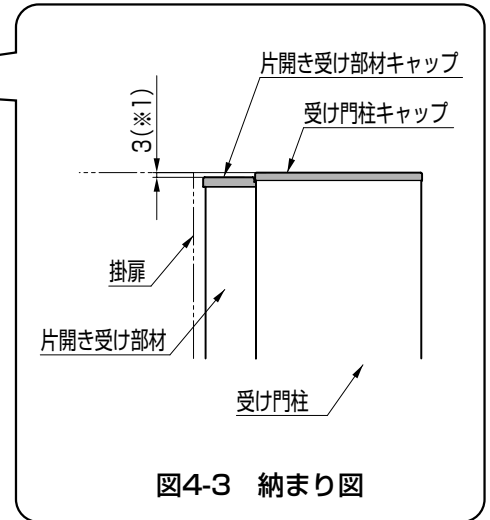


図4-3 納まり図

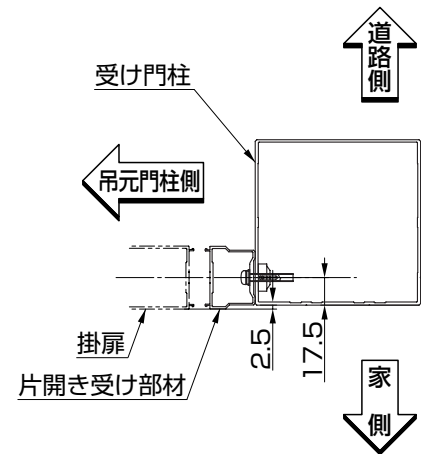


図4-4 断面図

表4-1

呼称	A	B	C	H
H14	205	835	1365	1490
H16	365	1035	1565	1690
H18	565	1235	1765	1890

- ①図を参照して、クッション材をH14は1本、H16及びH18は2本で片開き受け部材の長さに合わせて切断して、中心に貼り付けてください。(図4-1、図4-2参照)
- ②図と表を参照して、受け門柱に下孔加工をして、片開き受け部材を【3-1】で取付けてください。(図4-1、図4-4、表4-1参照)

#### ポイント

- 図4-1は、G.L.から門扉下端までが標準の90mmの場合です。
- G.L.から門扉下端までが90mmの場合は、受け門柱キャップと片開き受け部材キャップの天面の段差は3mm(※1)です。(図4-3参照)
- 孔加工位置は、V溝の上に加工してください。

## 4. (つづき)

### 4-2 躯体に取付ける場合

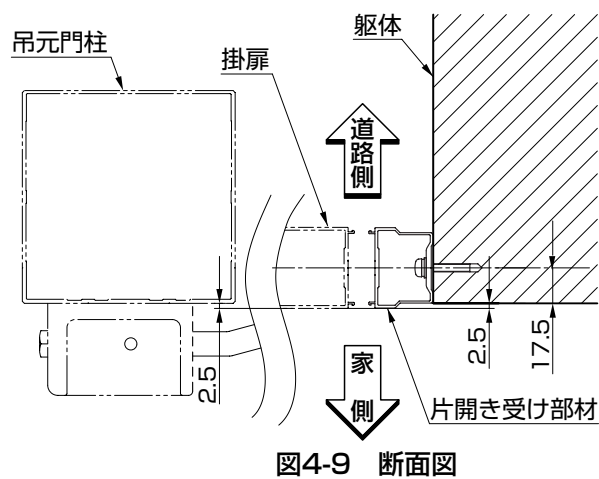
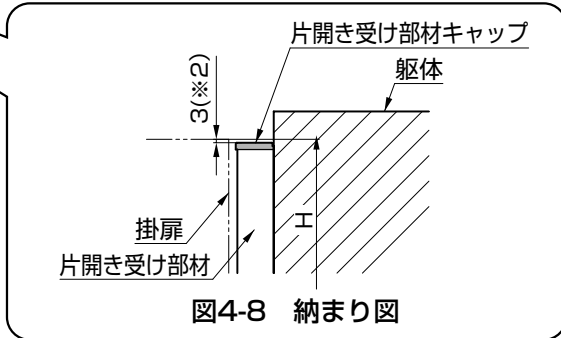
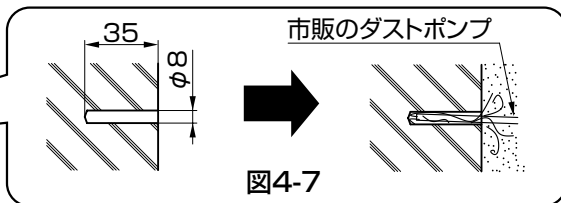
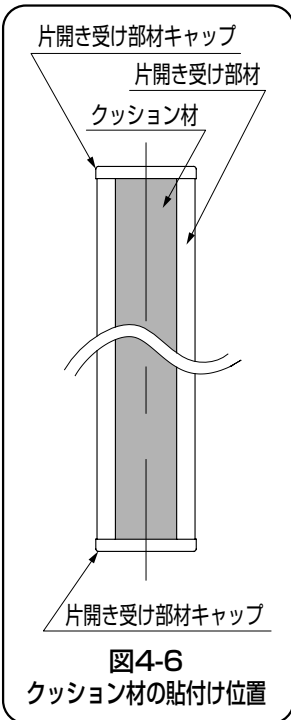
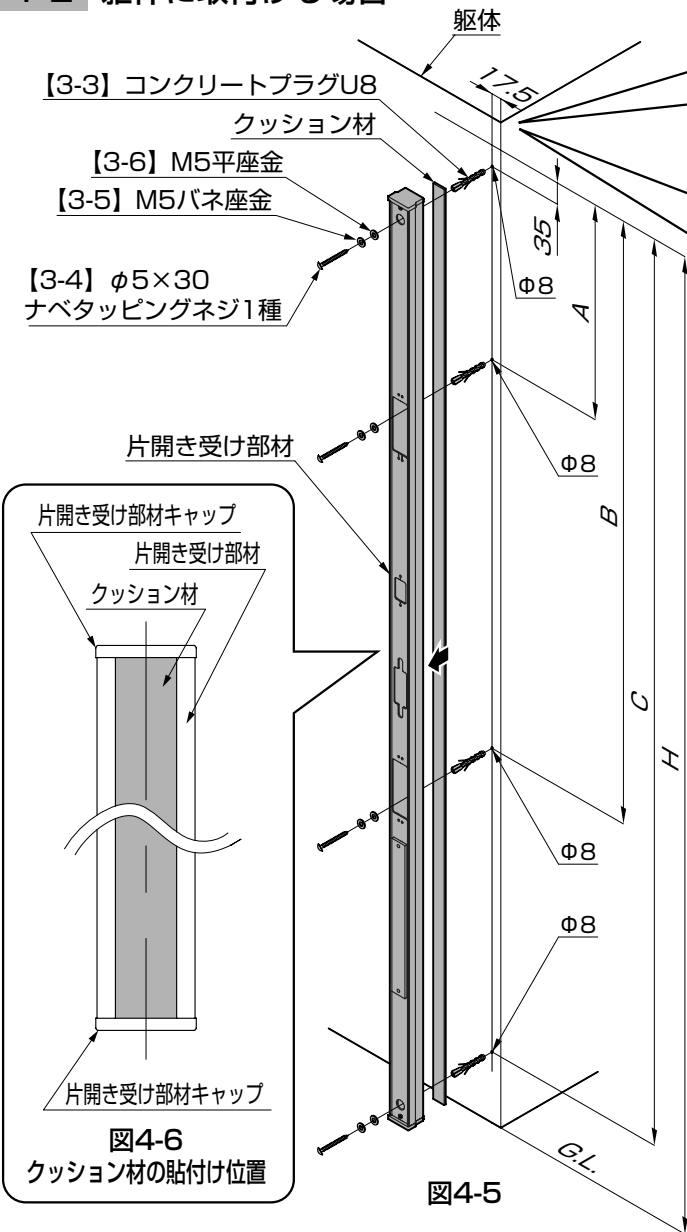


表4-2

呼称	A	B	C	H
H14	205	835	1365	1490
H16	365	1035	1565	1690
H18	565	1235	1765	1890

#### ポイント

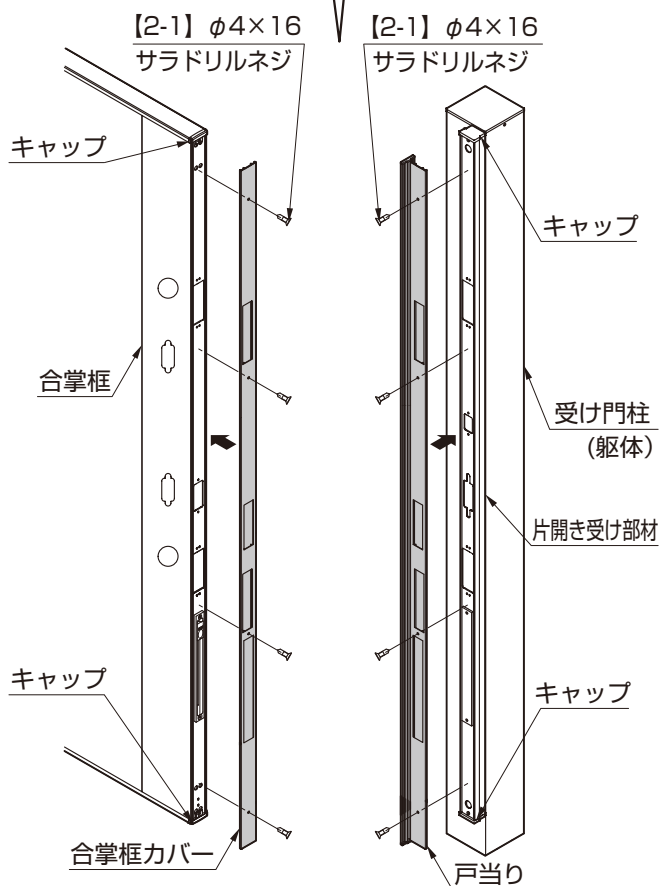
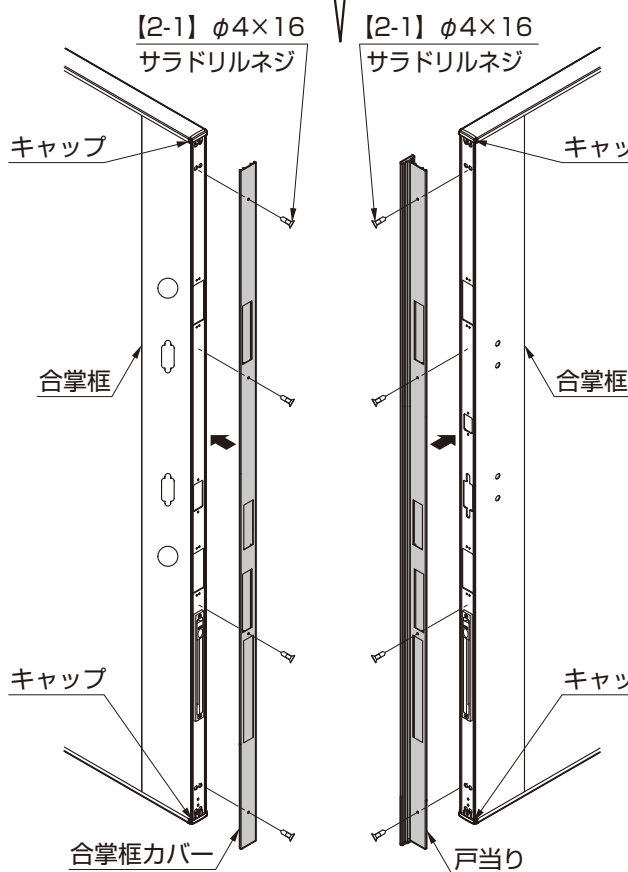
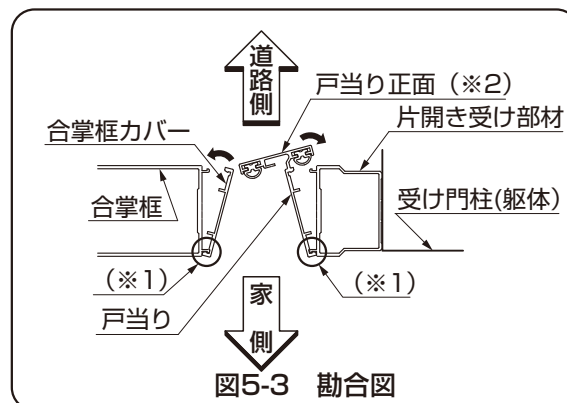
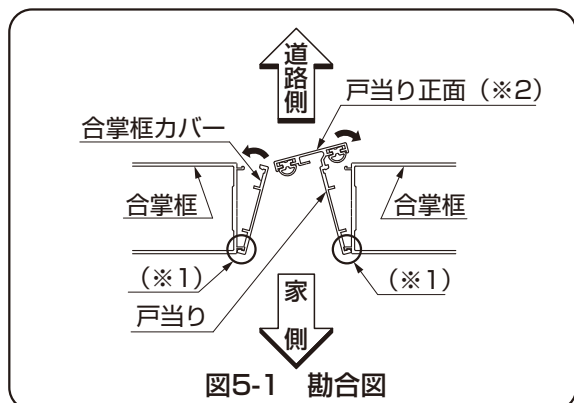
- 取付ける壁などの躯体の強度を確かめてください。
- 壁などの躯体の表面を塗りなどで仕上げる場合は、仕上げをする前に片開き受け部材の取付けを行ってください。

- ①図を参照して、クッション材をH14は1本、H16及びH18は2本で片開き受け部材の長さに合わせて切断して、中心に貼り付けてください。(図4-5、図4-6参照)
- ②図と表を参照して、壁などの躯体にφ8・深さ35mmの孔をあけて【3-3】を挿入後、片開き受け部材を【3-2】で組付けてください。(図4-5、図4-7、図4-9、表4-2参照)

#### ポイント

- 壁などの躯体に孔をあける際、振動ドリルを使用しないでください。
- 図4-5は、G.L.から門扉下端までが標準の90mmの場合です。
- G.L.から門扉下端までが90mmの場合は、H寸法から片開き受け部材キャップの天面の寸法は3mm(※2)です。(図4-8参照)
- 市販のダストポンプを使用して孔の中の切粉を取り除いてください。(図4-7参照)

## 5. 戸当り、合掌框カバーの取付け



①戸当り・合掌框カバーの家側のツメ(※1)を合掌框のツメに引っ掛けるようにはめ【2-1】で取付けてください。(図5-1、図5-2、図5-3、図5-4参照)

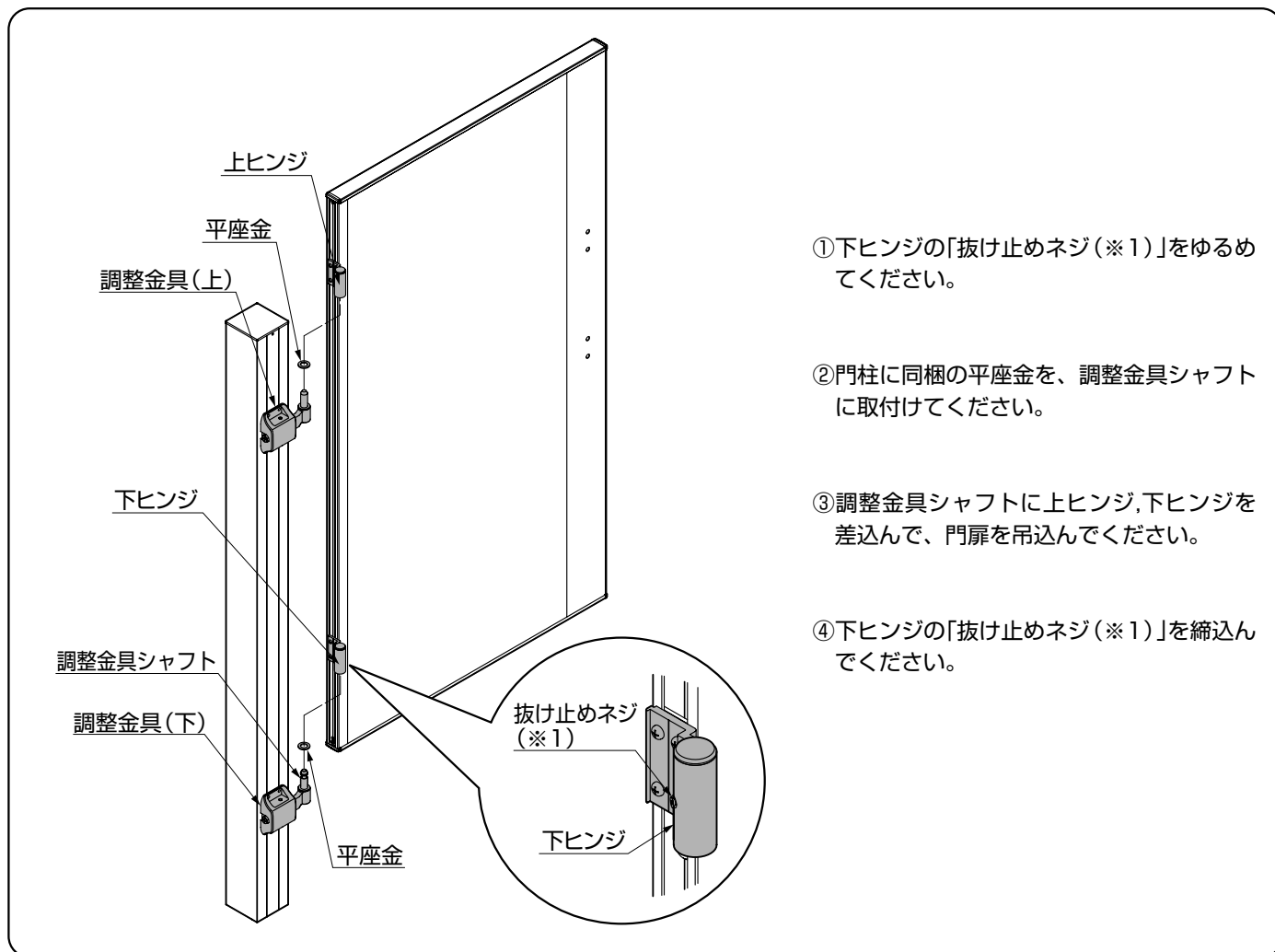
### ポイント

- 戸当り正面(※2)は、必ず道路側に向けて取付けてください。(図5-1、図5-3参照)
- 戸当り・合掌框カバーを取付ける扉は、「1.基本寸法図と各部の名称」を参照してください。

### 補足

- 合掌框には戸当り・合掌框カバー取付け用の孔加工はありません。

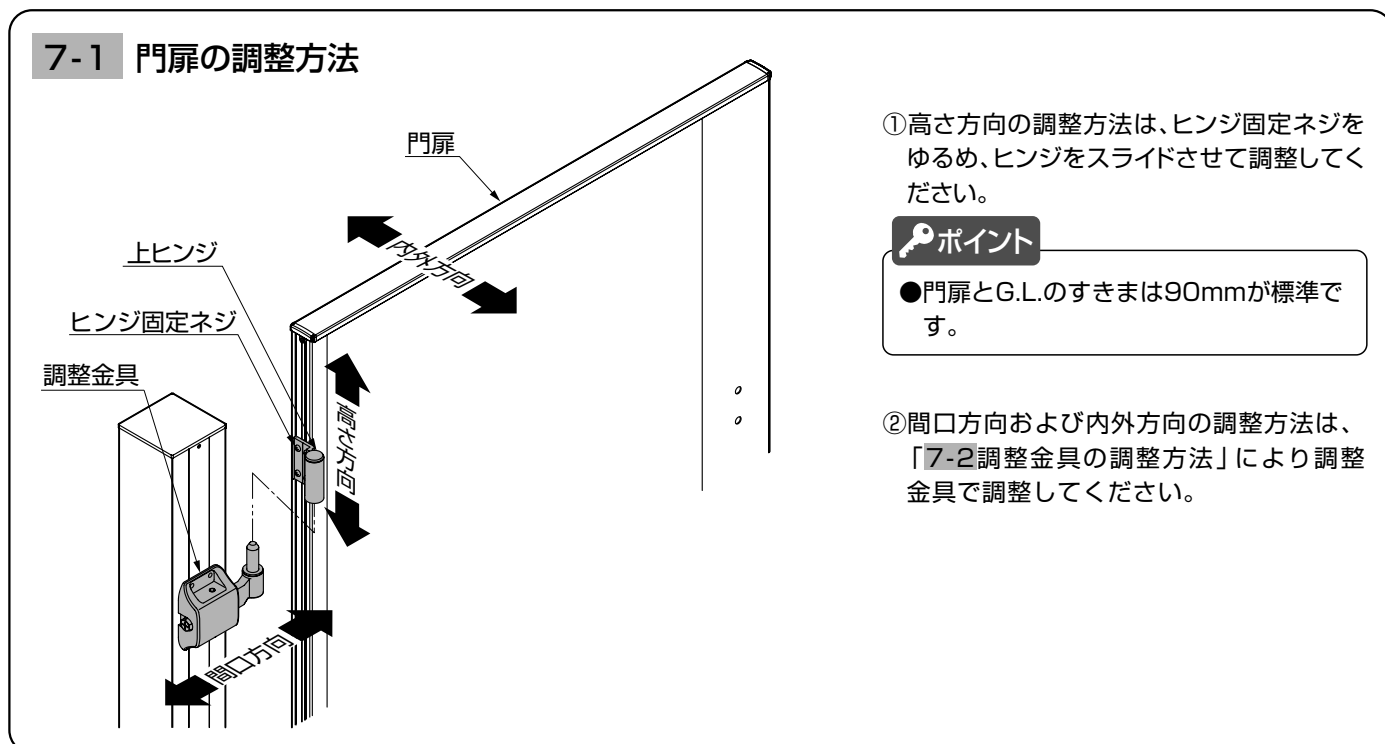
## 6. 門扉の吊り込み



- ①下ヒンジの「抜け止めネジ(※1)」をゆるめてください。
- ②門柱に同梱の平座金を、調整金具シャフトに取付けてください。
- ③調整金具シャフトに上ヒンジ,下ヒンジを差込んで、門扉を吊込んでください。
- ④下ヒンジの「抜け止めネジ(※1)」を締込んでください。

## 7. 門扉の調整

### 7-1 門扉の調整方法



- ①高さ方向の調整方法は、ヒンジ固定ネジをゆるめ、ヒンジをスライドさせて調整してください。

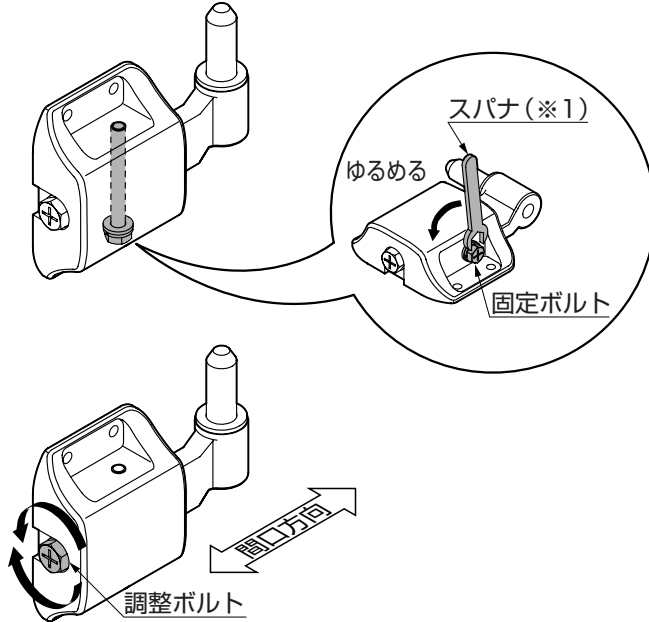
#### ポイント

- 門扉とG.L.のすきまは90mmが標準です。

- ②間口方向および内外方向の調整方法は、「7-2調整金具の調整方法」により調整金具で調整してください。

## 7-2 調整金具の調整方法

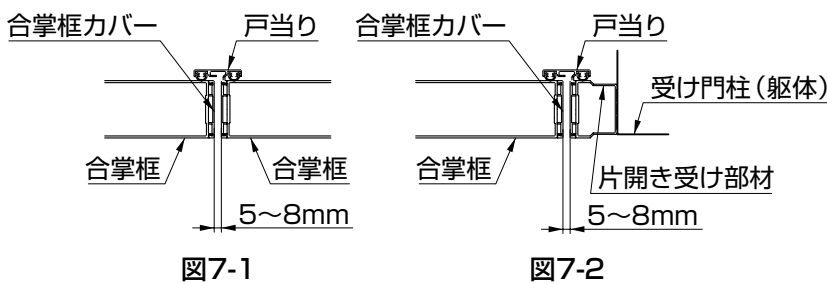
※固定ボルトは必ず呼び10のスパナを使用してください。(※1)



①「固定ボルト」を呼び10のスパナでゆるめてください。

### ポイント

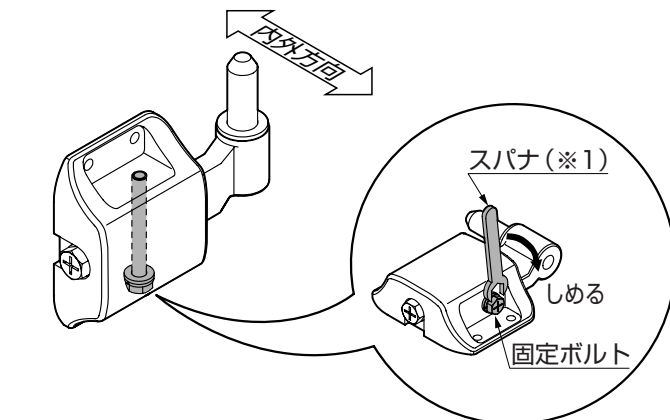
●「固定ボルト」を締めたまま間口寸法を調整すると「固定ボルト」が破損します。



②「調整ボルト」をまわして、図7-1、図7-2のようにチリ寸法を5~8mmに調整してください。

### ポイント

●上下のチリ寸法およびねじれがないように調整してください。



③内外寸法を決めたあと、「固定ボルト」の固定は呼び10のスパナで締付けてください。

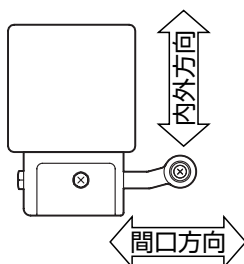


表7-1 調整範囲

内外方向	±4.5
間口方向	±8.5(※2)

### 補足

●調整範囲は表7-1を参照してください。  
●オプションを使用すると調整範囲が変わります。  
〔オートクローザー使用時：+8.5-5  
オートクローザー+吊元金具カバー使用時：+8.5-2  
(※2)

## 8. 吊元枠カバーの取付け（掛扉）

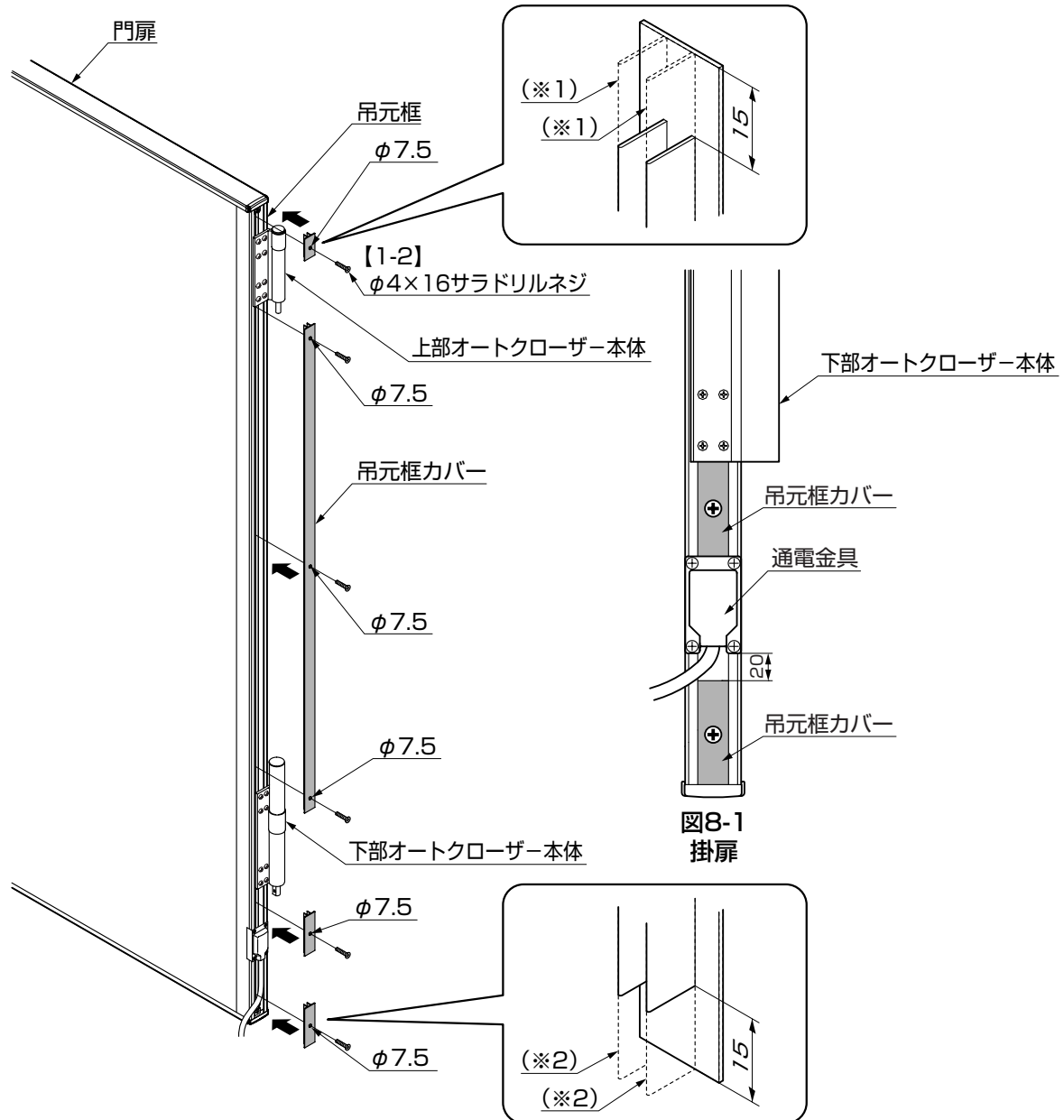


図8-1  
掛扉

### ポイント

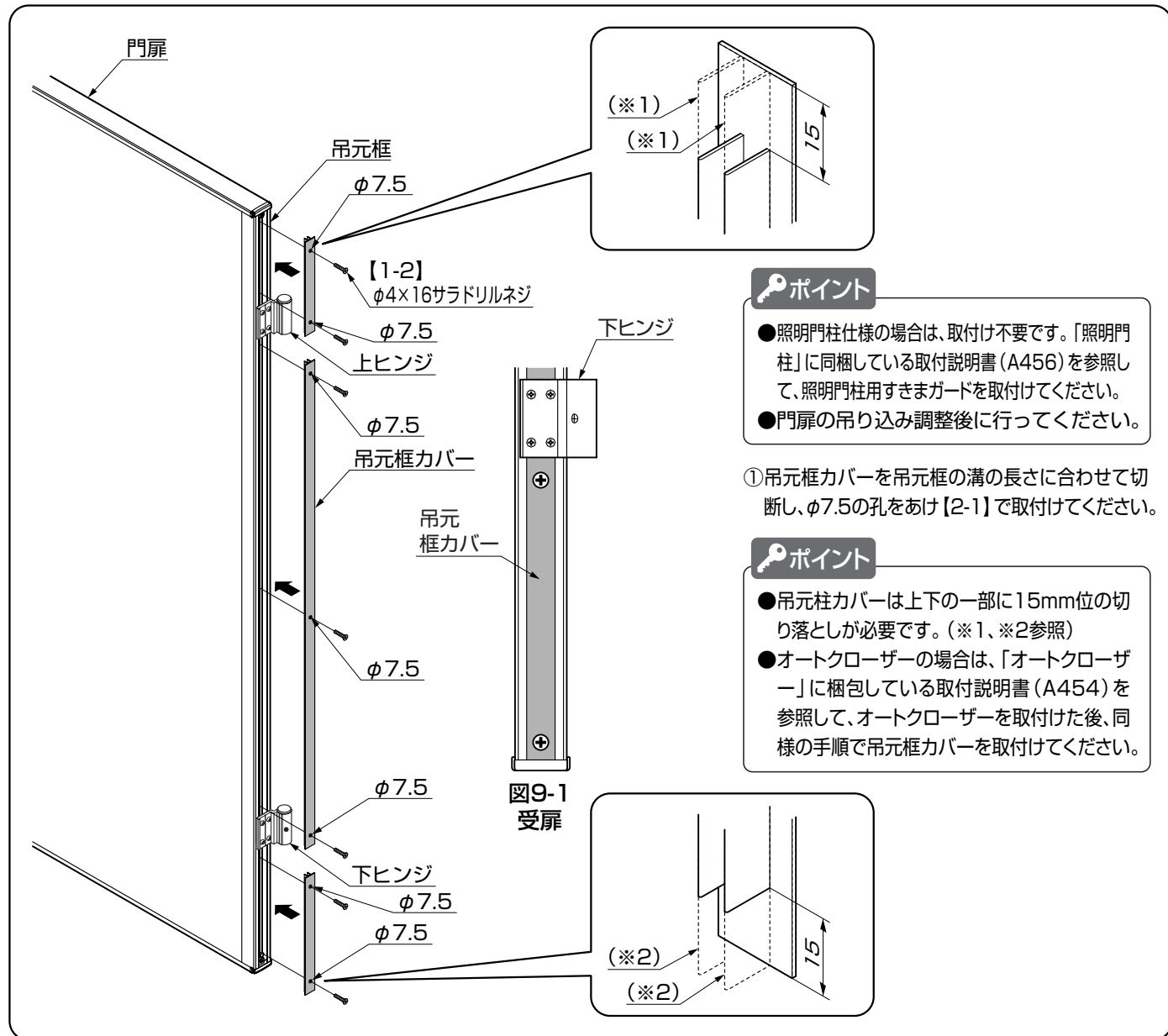
- 照明門柱仕様の場合は、取付け不要です。「照明門柱」に同梱している取付説明書（A456）を参照して、照明門柱用すきまガードを取付けてください。
- 門扉の吊り込み調整後に行ってください。

①吊元枠カバーを吊元枠の溝の長さに合わせて切断し、 $\phi 7.5$ の孔をあけ【2-1】で取付けてください。

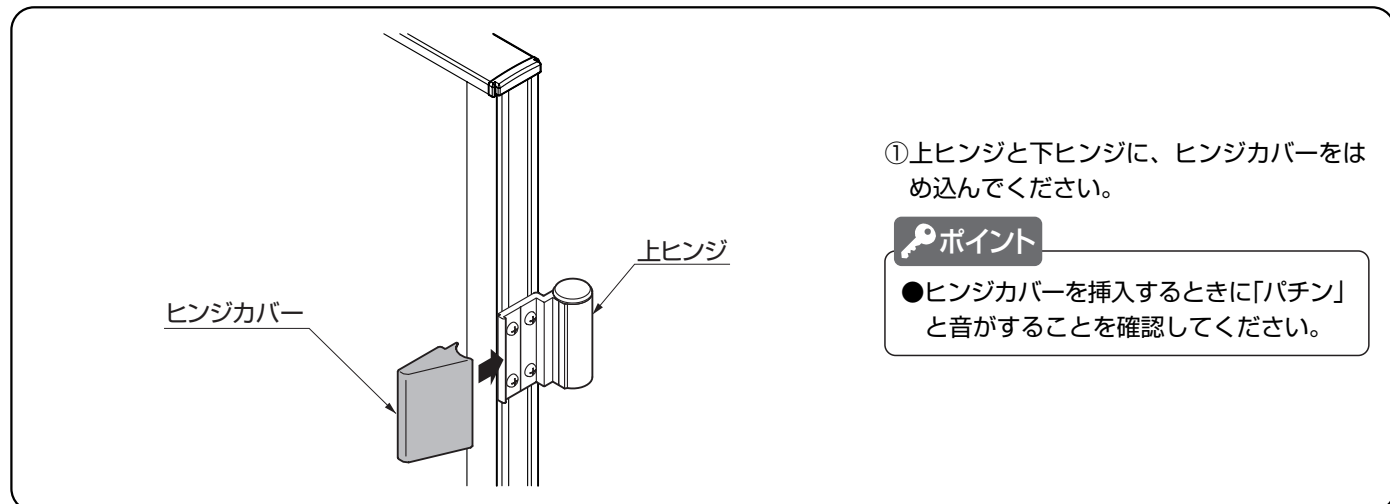
### ポイント

- 掛扉の場合は、通電金具の下を20mmあけて吊元枠カバーの長さを合わせてはめ込んでください。（図8-1参照）
- 吊元柱カバーは上下の一部に15mm位の切り落としが必要です。（※1、※2参照）
- オートクローザーの取付けは、「オートクローザー」に梱包している取付説明書（A454）を参照して取付けてください。

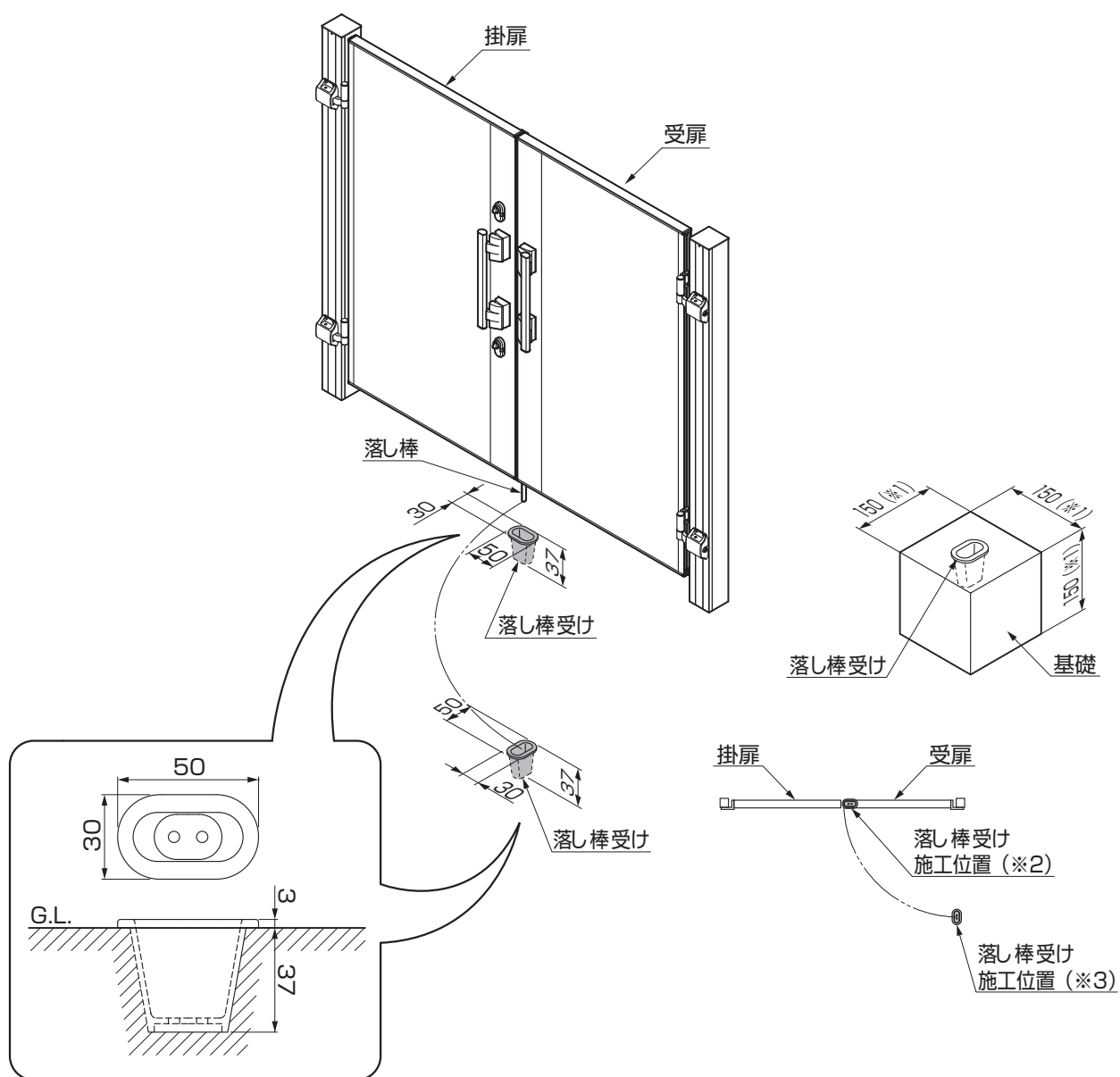
## 9. 吊元枠カバーの取付け（受扉）



## 10. ヒンジカバーの取付け



## 11. 落とし棒受けの施工 ※両開きの場合の作業です。



①受扉を開いた状態と閉じた状態で落とし棒を収める位置に、落とし棒受けを施工してください。（※2、※3）

### ポイント

- 落とし棒受けの埋込位置は、現場合わせて施工してください。
- 基礎寸法は指定寸法以上にしてください。（※1）
- 養生は、落とし棒を上げた状態で行ってください。風などによる扉の振動で、落とし棒受けの位置がずれるおそれがあります。
- 養生後、落とし棒と落とし棒受けの位置が合わない場合は、「7-2調整金具の調整方法」を参照して、調整金具で位置を合わせてください。

### 補足

- 錠の取付説明書を参考に、錠を取付けてください。



## 12. 配線方法

### 12-1 配線図

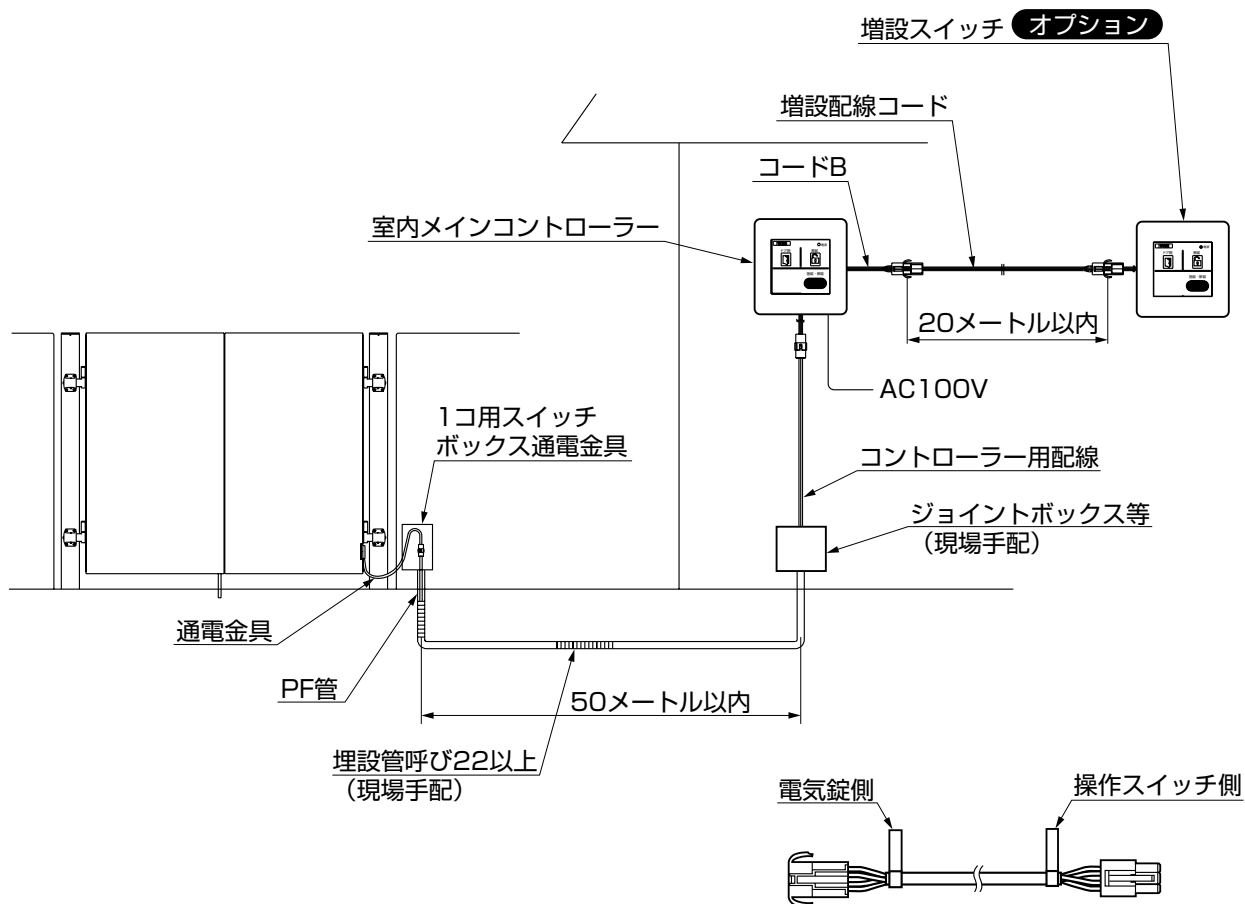


図12-1 コントローラー用配線

#### ポイント

- コントローラー用配線には、方向がありますので埋設する際、注意してください。(図12-1参照)
  - 埋設管の呼び径は、22以上のものを使用してください。呼び径が小さい場合、コントローラー用配線のコネクタ部が通らなくなります。
  - ジョイントボックスは、配線引込み用です。専用のコントローラー用配線は切断しないでください。
  - コントローラー用配線の長さは50メートルです。
  - 配線が余る場合は、屋側または、門扉付近の空いたスペースに束ねて長さを調整してください。
  - 配線を切りつめる場合は、下記内容に注意して実施してください。
    - ・コネクタはそのまま使用し、電線の途中部分(キャプタイヤ部分)を切断してください。
    - ・切断したケーブルは、キャプタイヤの被服を剥き、芯線の色をあわせて接続してください。
    - ・接続はスリーブなどにより確実に行ってください。
    - ・接続部には、必ず防水テーピングを施してください。
- なお、接続方法の詳細は、「内線規程 (JEAC8001-2000) 1335-7~9」に準じて実施してください。  
接続が不十分な場合、誤作動や漏電による作動不良の原因になります。

#### 補足

- コードB、増設配線コードは増設スイッチに付属しています。
- 増設スイッチは2台まで増設可能です。
- 増設配線コードの長さは20メートルです。

## 12. (つづき)

### 12-2 通電金具の配線

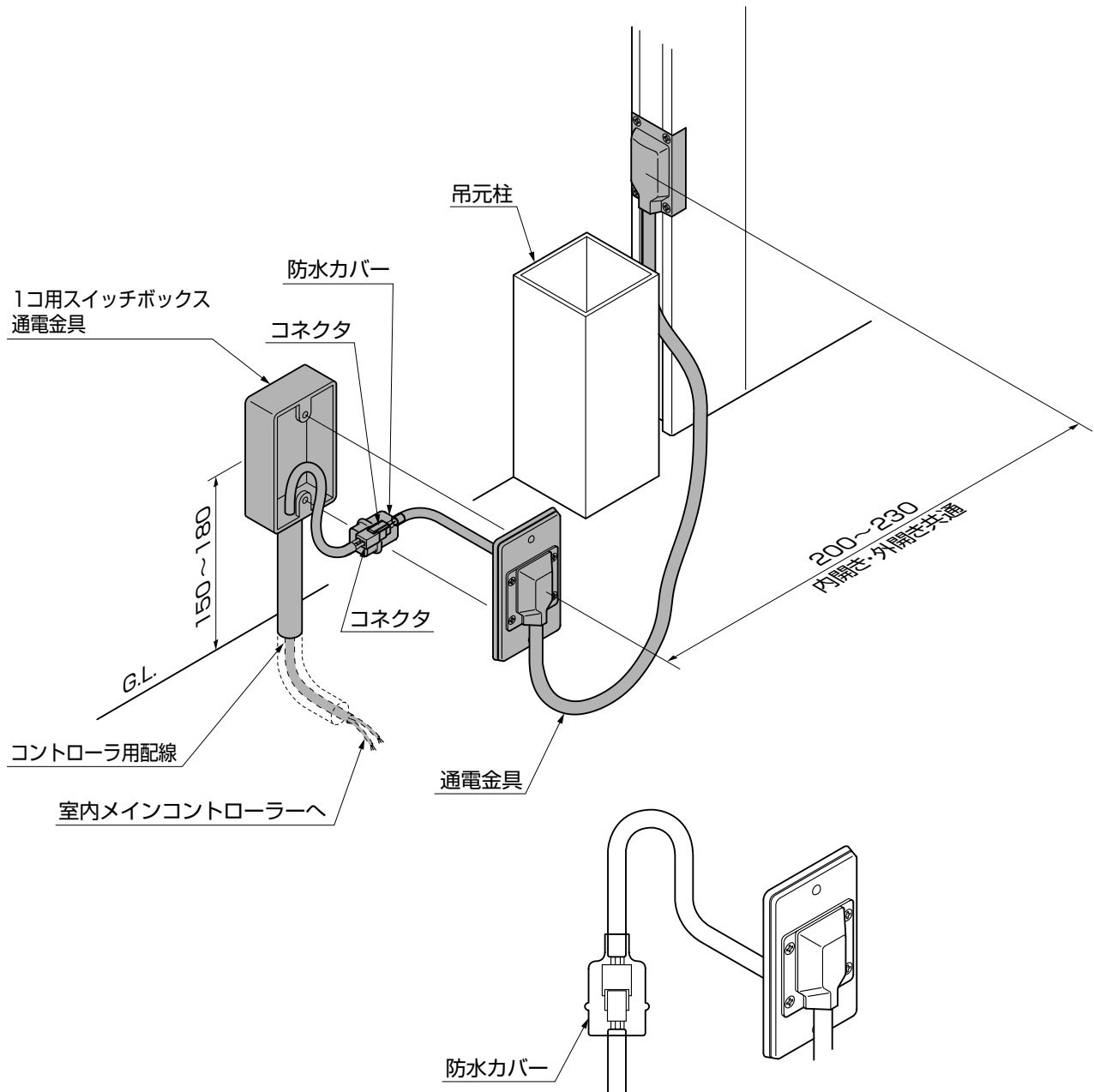


図12-2

- ① 1コ用スイッチボックス通電金具を図の寸法を参照して取付けてください。
- ② 通電金具のコネクタとコントローラ用配線のコネクタを接続してください。
- ③ 通電金具を1コ用スイッチボックス通電金具に取付けてください。

#### ポイント

- 通電金具側のコネクタに取付いている防水カバーが必ず上側になるようにスイッチボックス内に納めてください。(図12-2参照)

### 12-3 室内メインコントローラーの取付けと配線

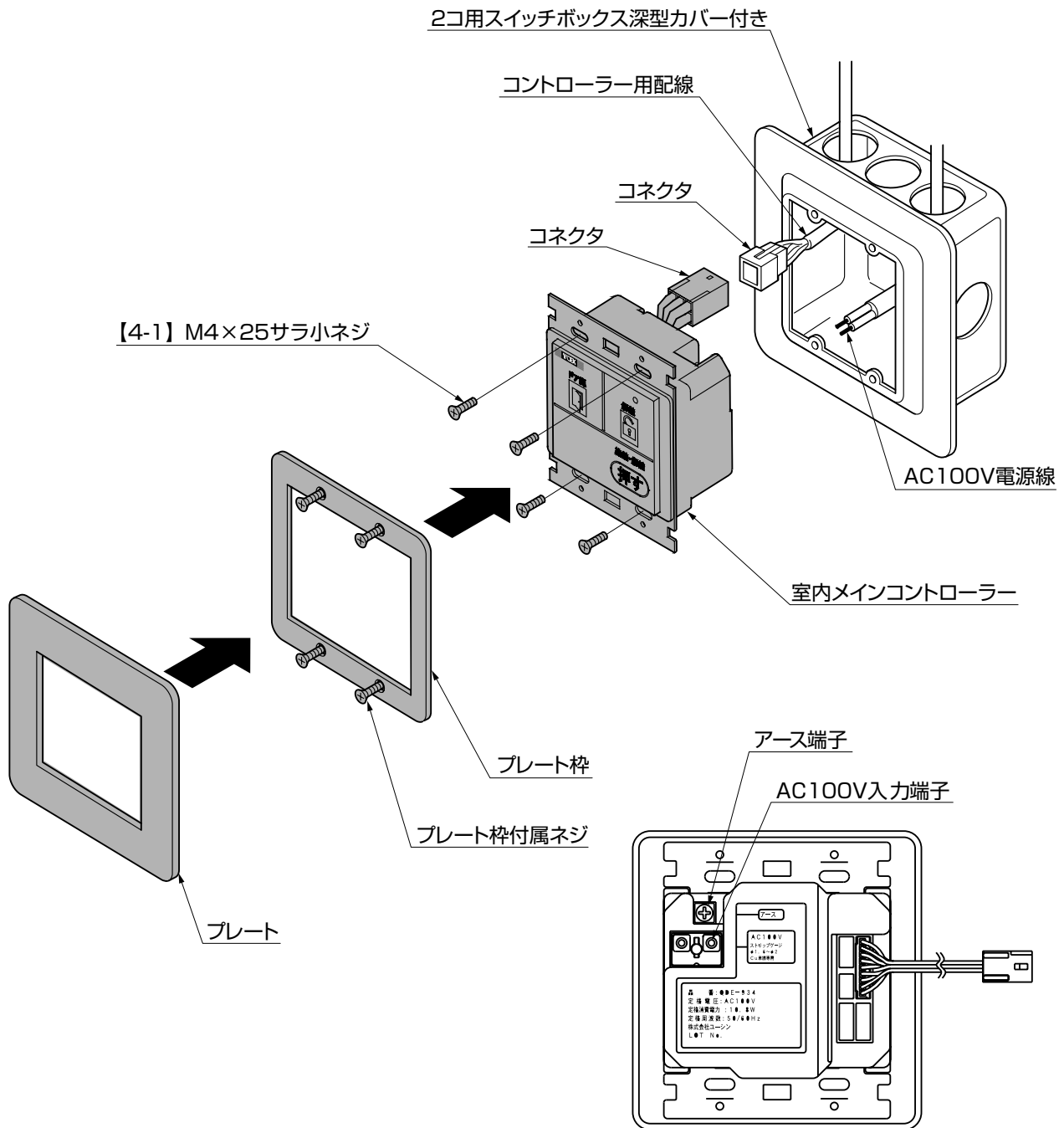
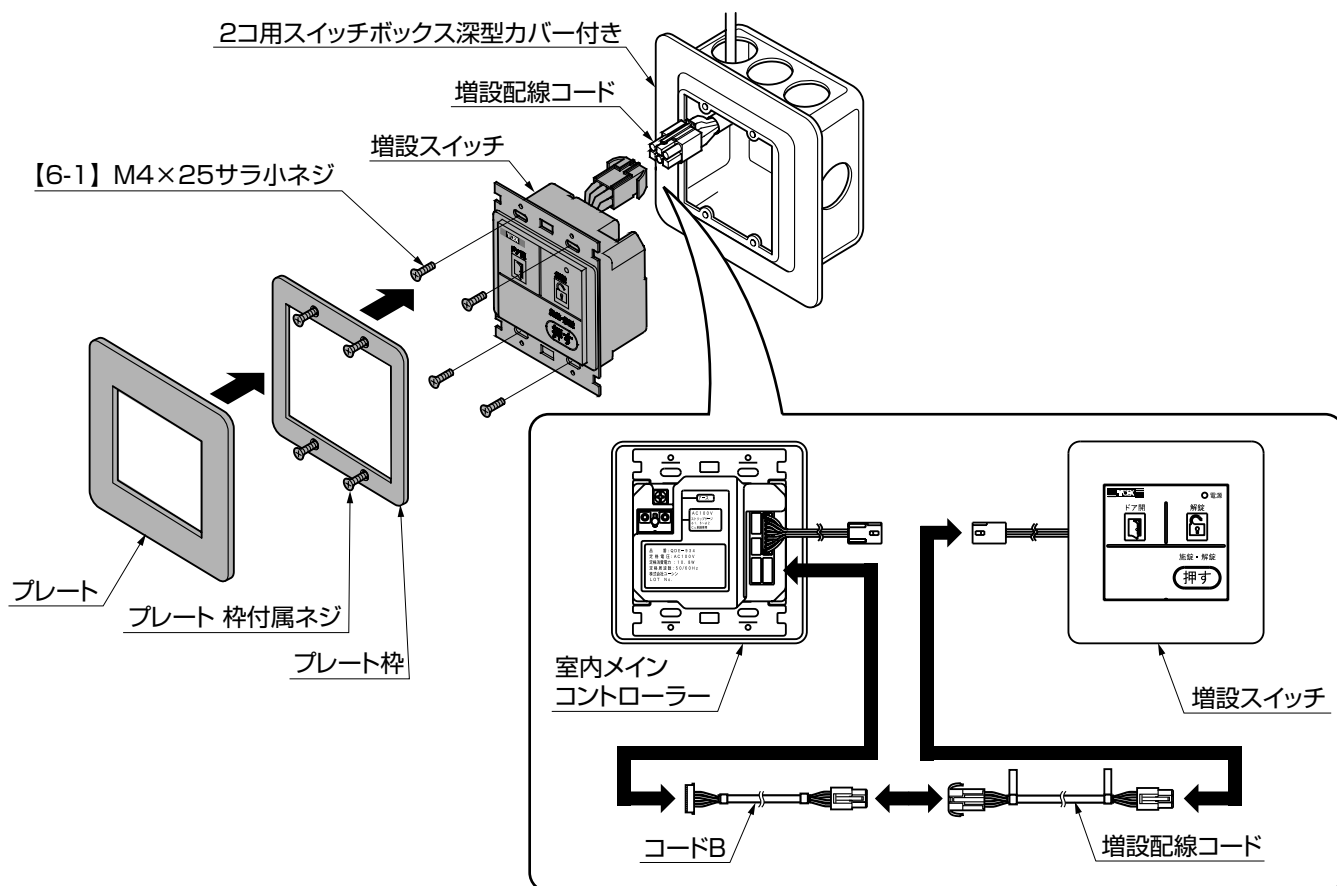


図12-3 室内メインコントローラー裏面

- ①AC100V電源線を室内メインコントローラーの入力端子に接続してください。（図12-3参照）
- ②コントローラー用配線のコネクタと室内メインコントローラーのコネクタを接続してください。
- ③室内メインコントローラーを【4-1】で、2コ用スイッチボックス深型カバー付きに取付けてください。
- ④プレート枠を室内メインコントローラーへ「プレート枠付属ネジ」で取付けてください。
- ⑤プレートをプレート枠にはめ込んでください。

## 12. (つづき)

### 12-4 増設スイッチの取付けと配線 **オプション**



- ①図のように増設スイッチと室内メインコントローラーの間に、増設配線用コード、コードBを接続してください。
- ②増設スイッチを【6-1】で2コ用スイッチボックス深型カバー付きに取付けてください。
- ③プレート枠を増設スイッチへ「プレート枠付属ネジ」で取付けてください。
- ④プレートをプレート枠にはめ込んでください。

## 13. 2線配線式の場合の配線

### 13-1 取付けと配線

#### 補足

- 取付説明書「タッチ&ノータッチキー門扉 -2線化変換アダプターセット- (T007)」を参照してください。

### 13-2 電気錠操作ユニットの取付けと配線

#### 補足

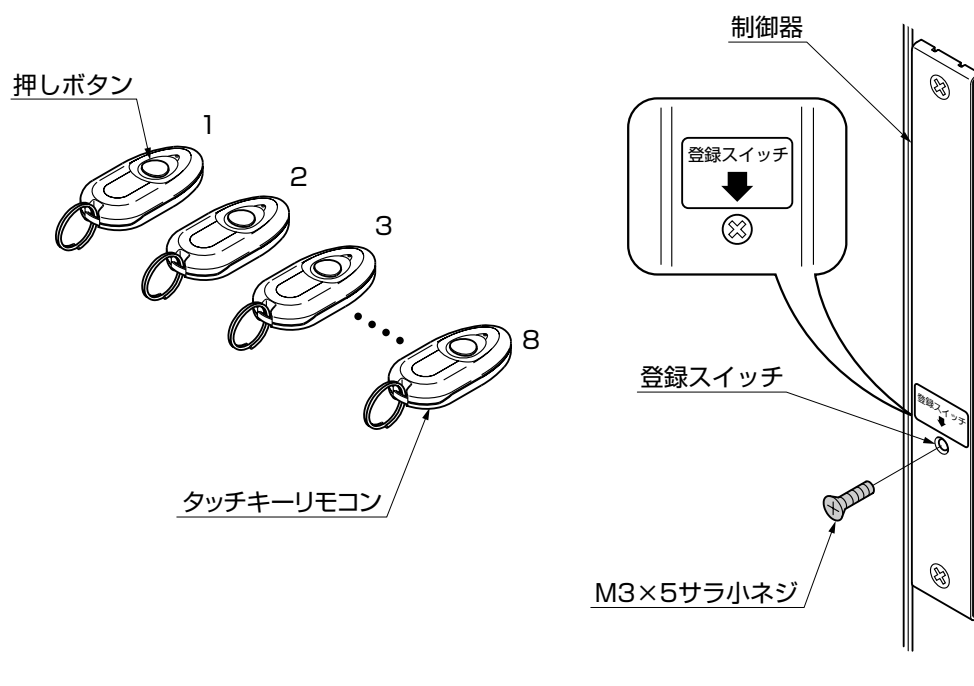
- 電気錠操作ユニットに付属の施工説明書を参照してください。

### 13-3 電気錠コントローラーの取付けと配線

#### 補足

- 電気錠コントローラーに付属の施工説明書を参照してください。

## 14. タッチキーリモコンの追加登録方法 **オプション**



### **ポイント**

- タッチキーリモコンは、本体に2個付属しています。付属のリモコンは登録済みです。
- タッチキーリモコンを増やしたいときには追加登録を行ってください。合計8個まで追加することができます。
- 追加登録すると、それまでの登録内容はすべて消えますので、すでに登録済みのタッチキーリモコンも同時に再登録してください。

- ①登録するタッチキーリモコンをすべて用意してください。
- ②扉を開けて制御器の下部にある「M3×5サラ小ネジ」を取外してください。
- ③登録スイッチをつまようじ、ヘアピン等の先の細いものを利用してブザーが3回鳴るまで登録スイッチを押してください。
- ④30秒以内に登録するタッチキーリモコンの押しボタンを押してください。

### **補足**

- 登録したタッチキーリモコンの個数分ブザーが鳴ります。
- ボタンを3秒以上押しつづけると、リモコンの電源が切れます。その場合は「15-3 リモコン本体の電源操作」を参照にして電源を入れてください。

- ⑤30秒後にブザーが鳴り登録終了になります。
- ⑥登録を終了したら取外した「M3×5サラ小ネジ」を取付けてください。

### **ポイント**

- 「M3×5サラ小ネジ」は必ず取付けてください。取付けないと水の侵入により故障の原因になります。

## 15. タッチキー&ノータッチキー門扉操作の確認

### 15-1 タッチキーモードでの解錠・施錠方法

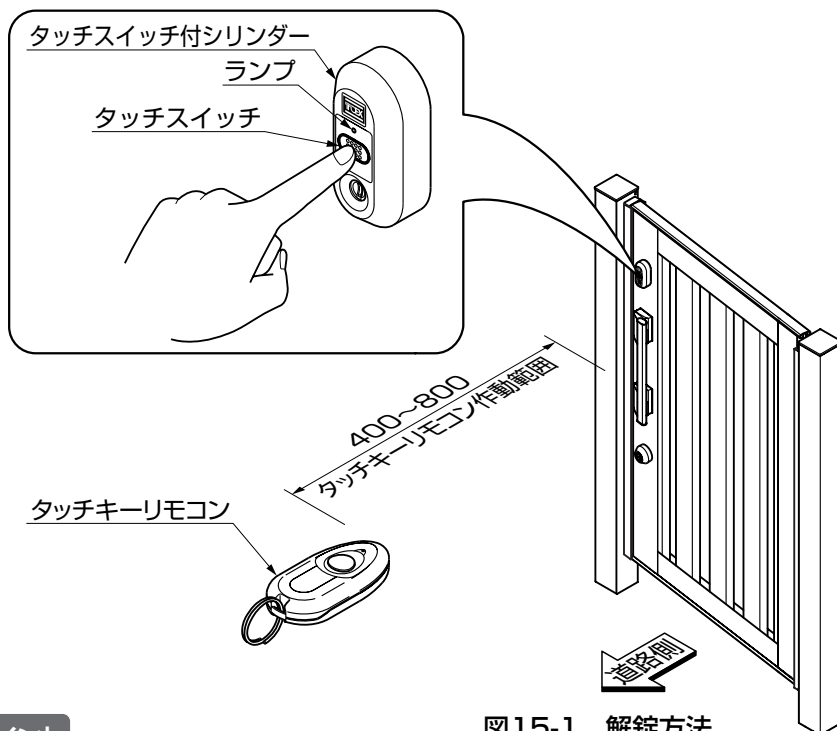


図15-1 解錠方法

#### ポイント

●タッチキーリモコンを使って門扉を操作する場合、タッチキーリモコンの登録が必要です。

- ①タッチキーリモコンを携帯して門扉から400mm~800mmの範囲でタッチスイッチ付シリンダーまたはタッチ付お出かけサムターンのタッチスイッチを押して門扉を解錠してください。

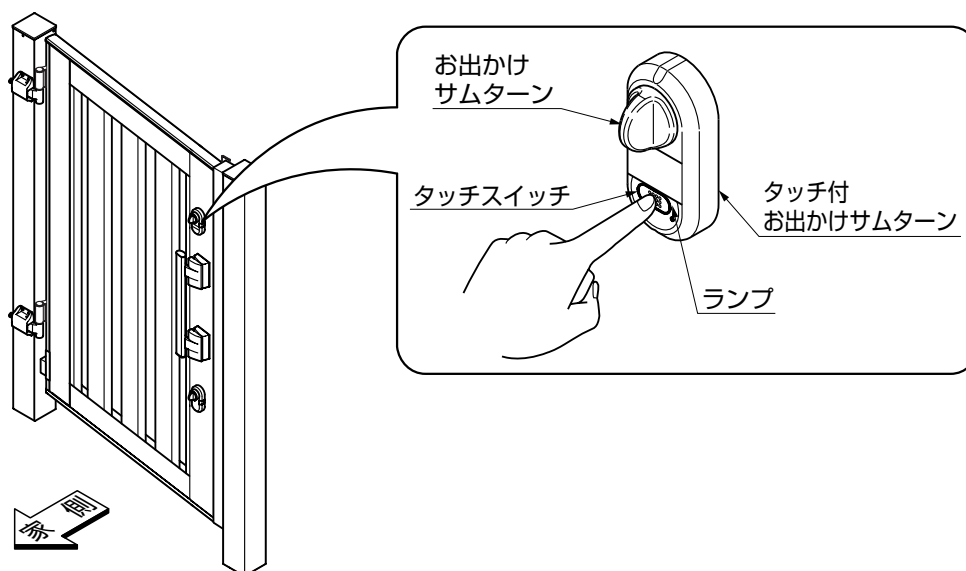


図15-2 施錠方法

- ②扉を開いて、扉を閉めると、1秒後に門扉が自動施錠することを確認してください。

#### 補足

●タッチスイッチにより解錠して、すぐに施錠したい場合は再度タッチスイッチを押すと施錠します。また操作をしなくても、30秒後に自動施錠します。

## 15-2 ノータッチキーモードでの解錠・施錠方法

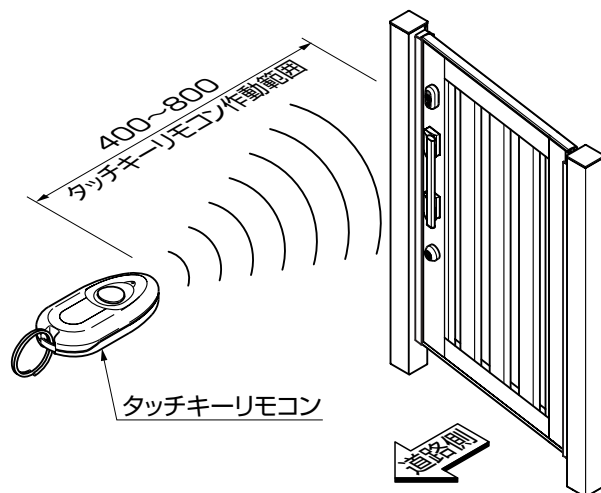


図15-3 解錠方法

### ポイント

●タッチキーリモコンを使って門扉を操作する場合、タッチキーリモコンの登録が必要になります。

①タッチキーリモコンを携帯して門扉に400mm～800mm近付いて門扉が解錠することを確認してください。

### 補足

●出荷時はタッチキーモードに設定しています。ノータッチキーモードに切替えるには「16.タッチキー/ノータッチキーモード切替確認」を参照してください。

●タッチキーリモコンを400mm以内に近付けると作動しないことがあります但故障ではありません。

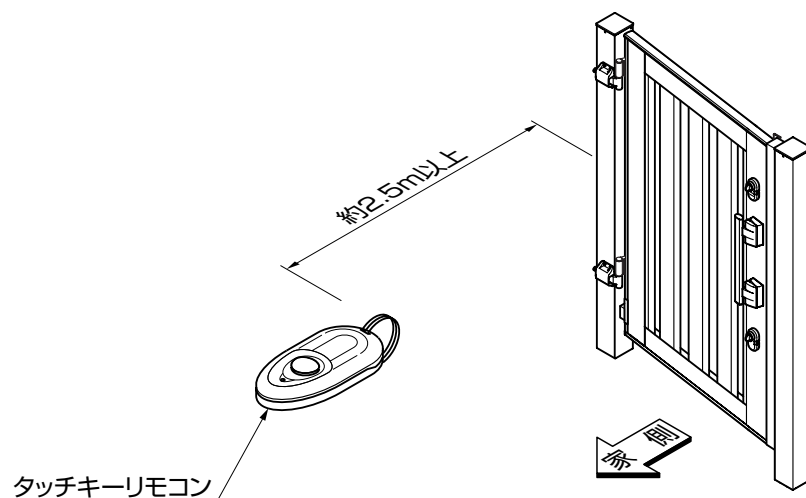


図15-4 施錠方法

②扉を開いた後、扉を閉めて扉から約2.5m以上離れると門扉が施錠することを確認してください。

## 15. (つづき)

### 15-3 リモコン本体の電源操作

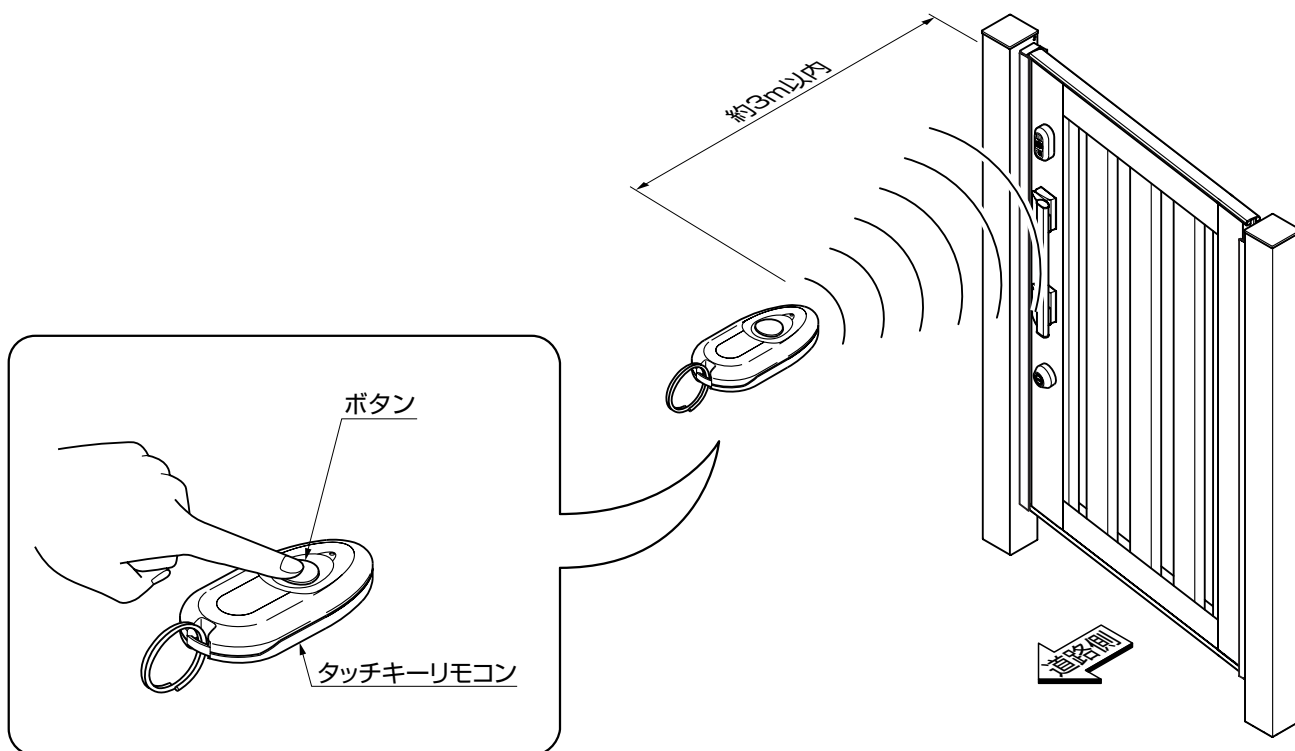
#### 補足

●門扉付近にタッチキーリモコンを保管する場合は、以下の方法でタッチキーリモコンの電源を切ってください。



- ①タッチキーリモコンの電源を切るには、ボタンを押すとリモコンランプが点灯する状態でボタンを約3秒間押してください。リモコンランプが消灯して電源が切れます。
- ②タッチキーリモコンの電源を入れるには、ボタンを押してもリモコンランプは点灯しませんが、そのまま約3秒間押し続けているとリモコンランプが点灯して電源が入ります。

### 15-4 リモコン機能での操作方法



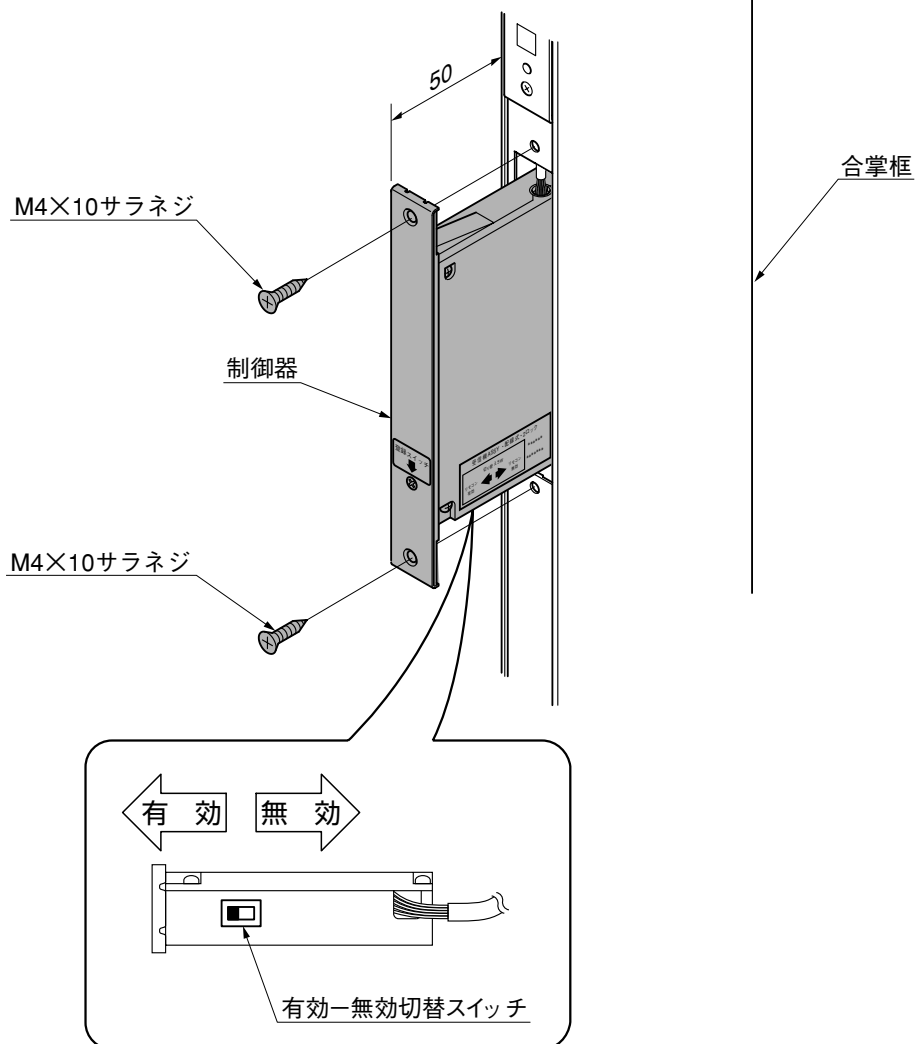
- ①門扉から約3m以内の離れた場所からタッチキーリモコンのボタンを押して、門扉が施錠・解錠することを確認してください。

#### 補足

- タッチキーリモコンのボタンを押して解錠した後にドアの開閉を行わなかった場合、約30秒後に自動施錠します。
- 扉の上または下の錠のどちらか一方が施錠している時、リモコン操作を行うと解錠します。もう一度タッチキーリモコンのボタンを押すと施錠します。
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局等の強い電波を発生する設備があるなど周囲の状況によっては作動距離が短くなったり、リモコン機能が使えなくなる場合があります。
- タッチキーリモコンの電波を感知するのは、押しボタンを押した指が離れてからです。



## 15-5 リモコン機能拒否の設定方法



### ポイント

- 玄関ドアや他門扉を共通で使用する場合、門扉と玄関ドアまたは、他門扉が近くにあるとリモコン操作ですべての扉が施解錠します。その場合は、門扉のリモコン機能を無効にしてください。

### 補足

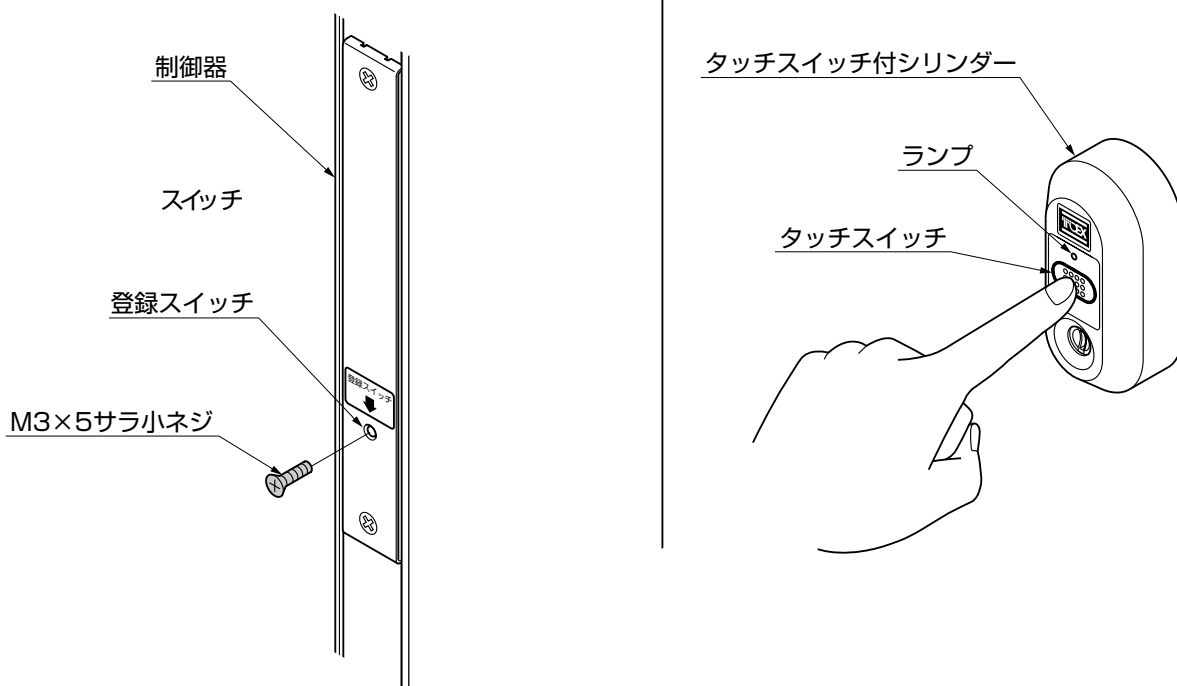
- 出荷時は、リモコン機能は有効になっています。

- ①制御器を固定している「M4×10サラネジ」を外してください。
- ②制御器を50mmほど手前に出してください。
- ③制御器下部の有効-無効切替スイッチを無効にしてください。
- ④外した手順と逆の手順で取付けてください。

### ポイント

- 制御器には配線を接続していますので無理に引っ張らないでください。

## 16. タッチキー／ノータッチキーモード切替確認



### ポイント

- タッチキーモードは、タッチキーリモコンを携帯して、門扉のタッチスイッチを押すと解錠します。
- ノータッチキーモードは、タッチキーリモコンを携帯して、門扉に近付くと解錠します。

### 補足

- 出荷時はタッチキーモードに設定しています。

- ①制御器の下部の「M3×5サラ小ネジ」を取外して、登録スイッチを「つまようじ」や「ヘアピン」等の先の細いもので押してブザーが3回鳴ることを確認してください。
- ②30秒以内にタッチスイッチを押してください。
- ③終了したら取外した「M3×5サラ小ネジ」を取付けてください。

### 補足

- タッチキーモードからノータッチキーモードの切替の時には、制御器のブザーが2回鳴り切替が完了します。
- ノータッチキーモードからタッチキーモードの切替の時には、制御器のブザーが1回鳴り切替が完了します。
- タッチキー／ノータッチキーモードの切替は反転になります。

## 17. 電気錠の操作確認

### 17-1 配線式の場合

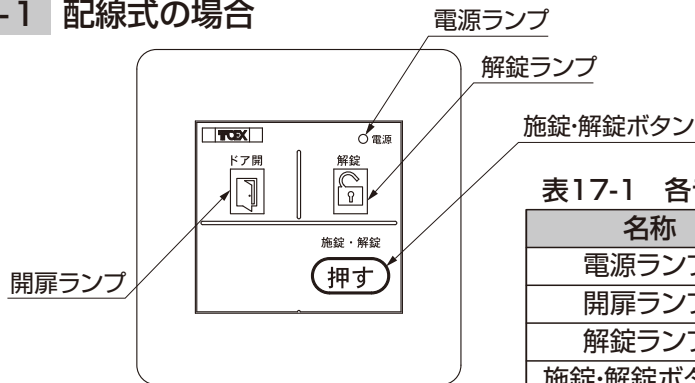


表17-1 各ランプ・ボタンのはたらき

名称	操作・表示
電源ランプ	電源が入ってる時に点灯します。
開扉ランプ	扉が開いてる時に点灯します。
解錠ランプ	扉が解錠している時に点灯します。
施錠・解錠ボタン	扉を施錠・解錠する時に押してください。

#### 補足

- 室内メインコントローラーを使用することで、室内から門扉電気錠の施錠・解錠を行うことができます。
- 開扉ランプが点灯している場合は、施錠・解錠の操作はできません。

①室内メインコントローラーの施錠・解錠ボタンを押してください。

#### 補足

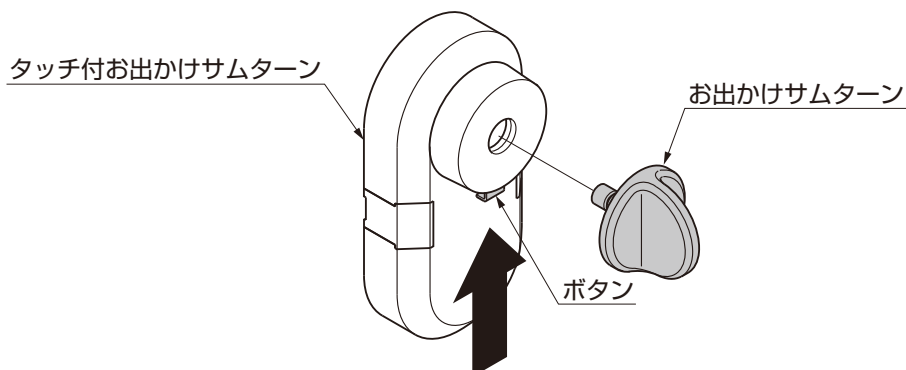
- 門扉を解錠した後、門扉の開閉を行わなかった場合は、約30秒後に、自動施錠します。
- 門扉の上の錠または下の錠のどちらか片方しか施錠していない場合は、解錠を行います。
- オプション設定の増設スイッチも室内インコントローラーと同じ操作・表示をします。
- 施錠・解錠ボタンを押した直後にもう一度施錠・解錠ボタンを押しても作動しません。

### 17-2 2線配線式の場合

#### 補足

- 電気錠操作ユニットまたは電気錠コントローラーに付属の取扱説明書を参照してください。

## 18. お出かけサムターンの取付け・取外しの確認



- ①お出かけサムターンを取外す時は、ボタンを押しながらお出かけサムターンを引張ってください。
- ②お出かけサムターンを取付ける時は、ボタンを押しながらお出かけサムターンを差込んでください。

#### 補足

- 施錠・解錠を家側から手動で行う場合は、お出かけサムターンにより操作可能です。
- コントローラーでお出かけサムターンにより解錠した場合は、自動施錠は行いません。  
電気錠操作ユニットBで配線をした場合は、機能設定により自動施錠を行います。

## 19. 調整金具固定部品の取付け ※門柱使用の場合の作業です。

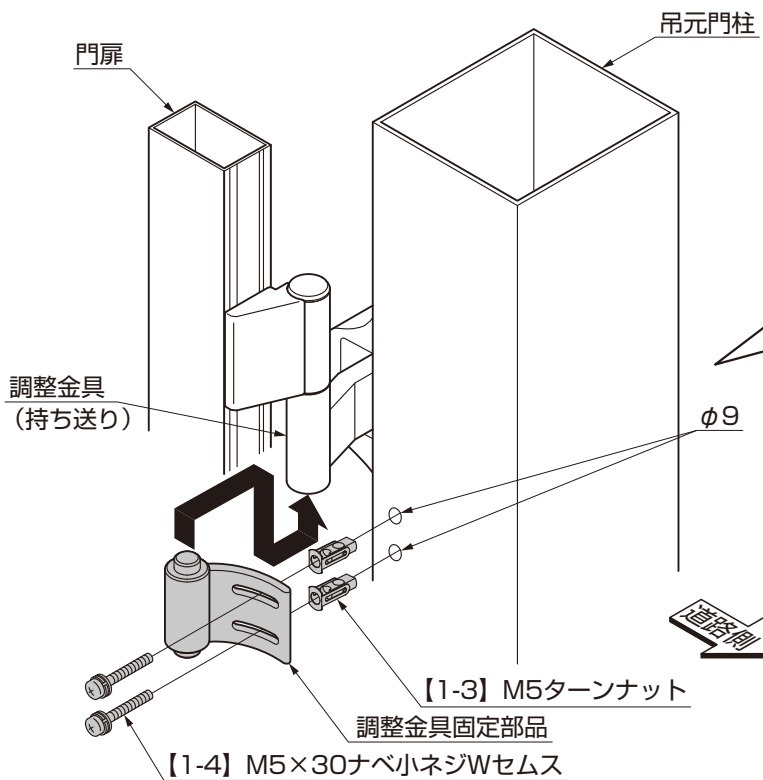


図12-2 内開きの場合

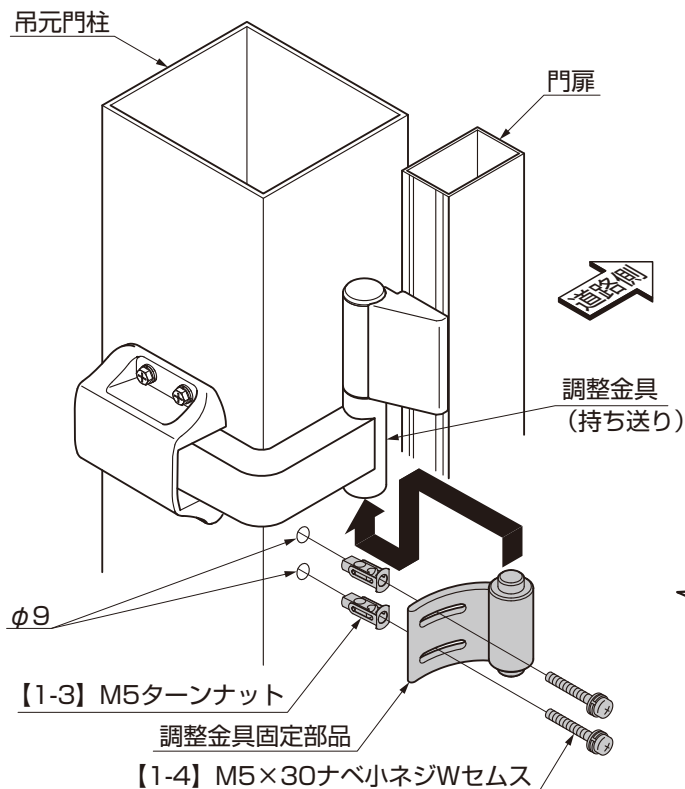


図12-4 外開きの場合

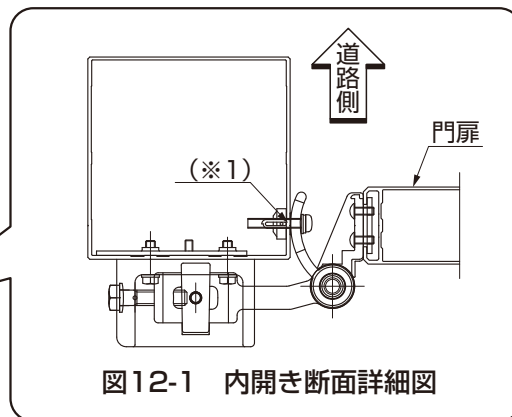


図12-1 内開き断面詳細図

- ①調整金具固定部品のシャフト部を調整金具（持ち送り）の軸穴にはめるように【1-3】、【1-4】で取付けてください。

### ポイント

- 門柱を吊り込み、調整金具の調整・固定後に行ってください。
- 門扉を全開状態にして作業を行ってください。
- 門柱へのφ9孔加工は、調整金具固定部品が突き当たる位置（※1、※2）に開けてください。（図12-1、図12-3参照）

### 補足

- PM照明門柱の場合は使用しません。

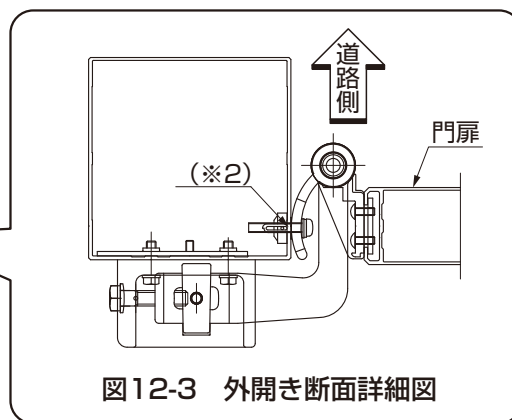


図12-3 外開き断面詳細図

取説コード

**A458**

JZZ615942F  
200803A\_1001  
201510G\_1049